事　業　編

第Ⅰ　施設の維持管理

公益財団法人における「公益目的事業」として世田谷区の指定管理者制度の協定に基づく区立保健センター維持管理運営、がん対策事業、健康増進事業、障害者相談支援事業等、及び自主事業である健康教育事業を行い、また公益目的事業を補完するための「収益事業」として保険診療等による検査事業、検体検査事業、料金規程等による事業を行っている。

《区立保健センター施設・設備等の維持管理運営事業》

令和２年度に引き続き、令和３年度においても新型コロナウイルス感染症拡大による政府の緊急事態宣言等に伴い、事業の一部休止や定員抑制の状況はあったものの、前年のように大幅な休止状況には至らず、多くの事業は継続実施となった。

しかし、新型コロナウイルス感染症終息の見通しは未だ見えず、令和４年度においても、感染症対策を中心に安全で安心な施設運営と事業展開を基本としつつ、区民の生活環境の変化や社会経済動向にも目を向けながら、区民の健康の維持・増進と福祉向上に向けた積極的な取組みが求められている。

感染症予防策として、昨年度より引き続き、利用者と対面する受付等に透明ビニールカーテンの設置、手が触れる箇所の随時消毒、また各部屋への手指消毒用アルコール配置等の対策を行うとともに、来所時の検温、体調チェック、マスク着用を徹底して事業にあたった。消毒、換気などの対策を十分に講じ、令和４年度途中より受入人数の制限緩和を行い段階的にコロナ前の状況に戻してきている。

第Ⅱ　医務課事業

令和３年度においては、公益財団法人における「公益目的事業」として世田谷区の指定管理者制度の協定に基づき、がん検診事業、健康増進事業及び自主事業である健康教育事業を行った。

また、公益目的事業を保管するための「収益事業」として、区委託の検体検査事業、保険診療等による検査事業、自主事業として料金規程等による事業を行った。

Ⅰ　がん対策事業（区指定管理）

１　世田谷区がん検診受付センター

保健センターでは、世田谷区の対策型がん検診等を希望する区民の申し込みや問い合せの総合窓口として「世田谷区がん検診受付センター」を運営している。胃がん検診（エックス線・内視鏡）の他に大腸がん・乳がん・子宮がん・肺がん・Ｂ型Ｃ型肝炎ウイルス・胃がんリスク（ＡＢＣ）・前立腺がんの検診等の申し込み受付及び受診票発行等を行っている。

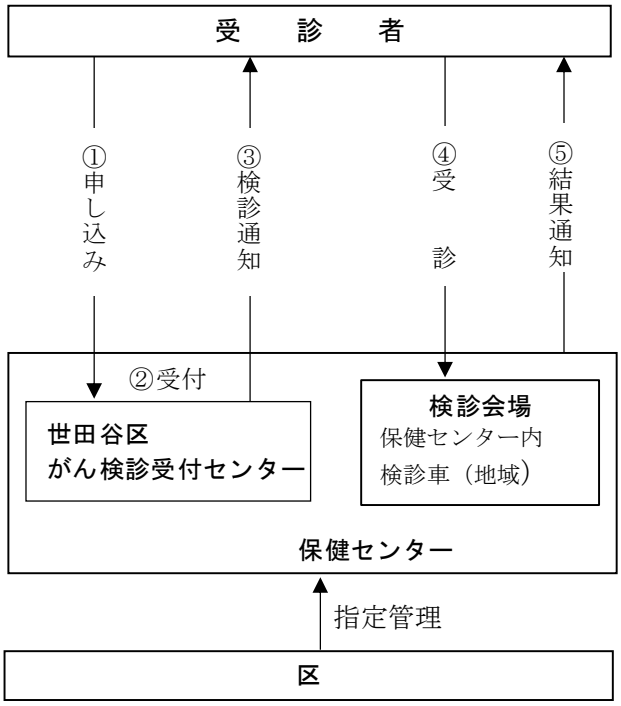
２　胃がん検診

⑴　胃がん（エックス線）検診

世田谷区では40歳以上の区民（１年に１回）を対象に保健センター施設内および検診車にて、エックス線撮影による胃がん検診を行っている。

また、結果については二重読影を行った後に、すべて郵送対応で通知しており、要精検者については、地域医療機関との密接な提携のもとに、内視鏡および病理組織検査等の保険診療による精密検査を実施している。

◎胃がん（エックス線）検診実施流れ図



受診者の約61.5％が公募（一般・広報）による申し込み者である。町会検診も区内全域で実施されている。施設内では毎月第２第４土曜日にも検診を行い142回、検診車（２台）による集団検診は世田谷区内の総合支所・各種区民施設等で213回行われた。

◎胃がん（エックス線）検診　申告別受診者状況

区分	申込者数	受診者数	受診率（%）	構成比（%）
一般・広報	2,216	1,954	88.2	61.5
受診勧奨	907	831	91.6	26.2
町会	460	390	84.8	12.3
計	**3,583**	**3,175**	**88.6**	**100.0**

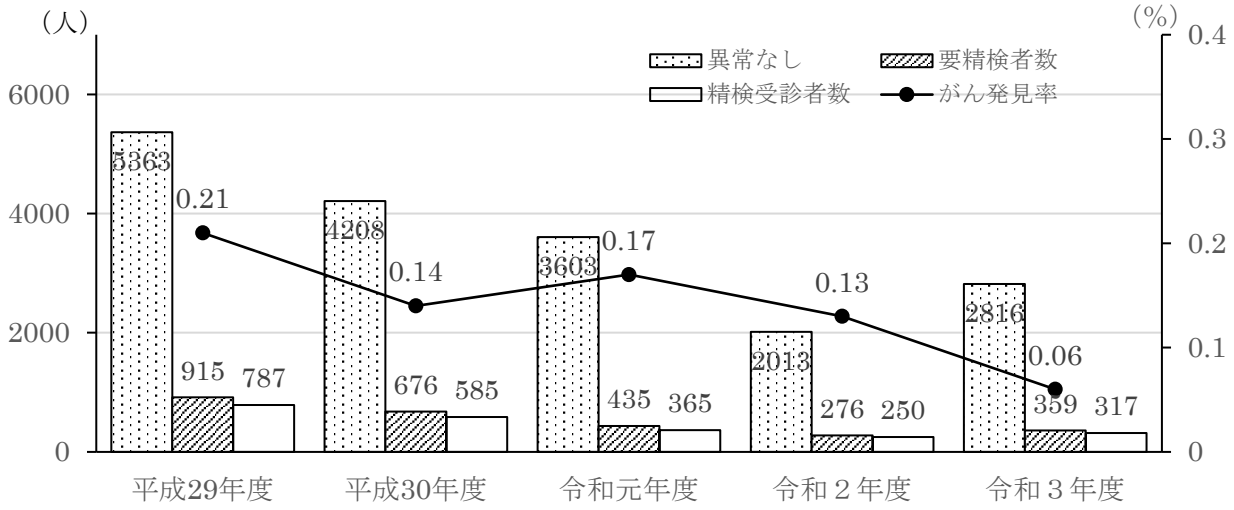
◎胃がん（エックス線）検診　会場別受診者状況

区分	稼働回数	申込者数	受診者数	受診率（%）	構成比（%）
施設	142	1,819	1,640	90.2	51.4
検診車	213	1,764	1,535	87.0	48.3
計	**355**	**3,583**	**3,175**	**88.6**	**100.0**

胃がん（エックス線）検診は年々受診者が減少しており、これは、高齢者の継続雇用による企業検診への移行や、安全基準による受診条件を満たせない方の増加、内視鏡検診への移行などが考えられる。また新型コロナウイルス感染症拡大を受け、検診車内や待合いでの密回避や消毒を徹底するために定員数を減らして実施したことも受診者数への影響が大きかった。

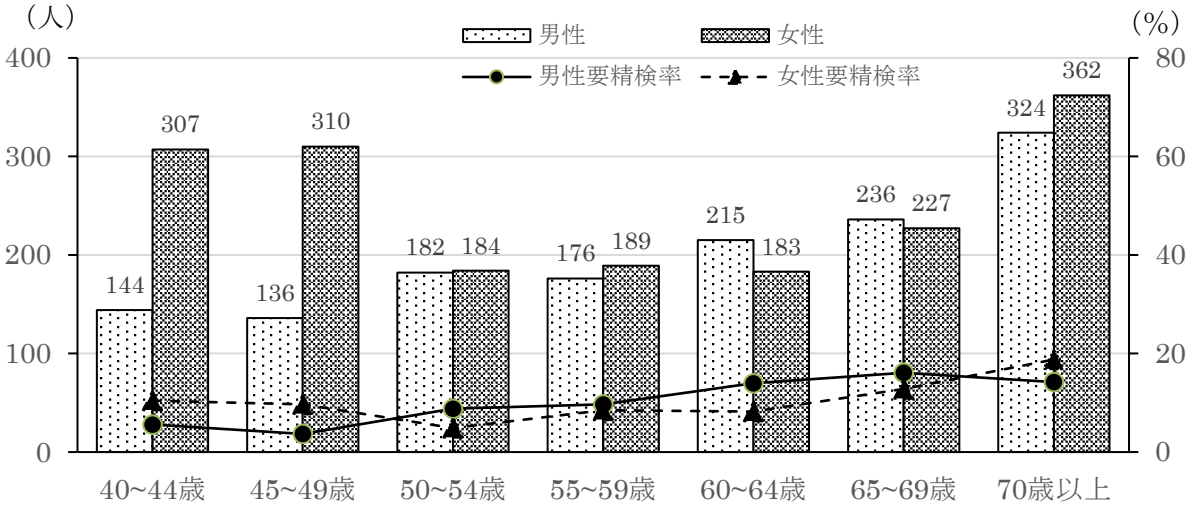
◎胃がん（エックス線）検診　受診者状況の推移

区分 年度	受診数 A	要精検者数 B（B/A%）	精検受診者数 C（C/B%）	がん発見数 D(食道がん)	早期がん数 E（E/D%）	がん発見率 (D/A%)
平成29年	6,278	915（14.6）	787（86.0）	13（2）	9（69.2）	0.21
平成30年	4,884	676（13.8）	585（86.5）	7（1）	4（57.1）	0.14
令和元年	4,038	435（10.8）	365（83.9）	7（0）	5（71.4）	0.17
令和２年	2,289	276（12.1）	250（90.6）	3（0）	2（66.7）	0.13
令和３年	**3,175**	**359（11.3）**	**317（88.3）**	**2（0）**	**1（50.0）**	**0.06**



◎胃がん（エックス線）検診　男女・年齢別受診者数と要精検率

区分	合計			男性			女性		
	人数	要精検数	要精検率(%)	人数	要精検数	要精検率(%)	人数	要精検数	要精検率(%)
総　数	**3,175**	**359**	**11.31**	**1,413**	**160**	**11.32**	**1,762**	**199**	**11.29**
40～44 歳	451	40	8.87	144	8	5.56	307	32	10.42
45～49 歳	446	35	7.85	136	5	3.68	310	30	9.68
50～54 歳	366	25	6.83	182	16	8.79	184	9	4.89
55～59 歳	365	33	9.04	176	17	9.66	189	16	8.47
60～64 歳	398	45	11.31	215	30	13.95	183	15	8.20
65～69 歳	463	67	14.47	236	38	16.10	227	29	12.78
70 歳以上	686	114	16.62	324	46	14.20	362	68	18.78



＜胃がん（エックス線）検診からの精密検査＞

当センターでの精密検査の受診者は 34 人で、胃がんは 1 件発見された。

◎胃がん（エックス線）検診　精密検査男女・年齢別疾病分類（保健センター実施分）

区分	総数	男	女	40～44歳		45～49歳		50～54歳		55～59歳		60～64歳		65～69歳		70歳以上	
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
受診者数	**34**	10	24	0	4	0	1	1	1	1	2	2	0	4	4	2	12
胃がん	**1**	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
食道がん	**0**	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
胃潰瘍	**0**	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
潰瘍瘢痕	**4**	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
びらん	**10**	3	7	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	1	4
ポリープ	**10**	3	7	0	1	0	1	0	1	0	2	1	0	2	0	0	2
胃炎	**9**	3	6	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	1	0	4

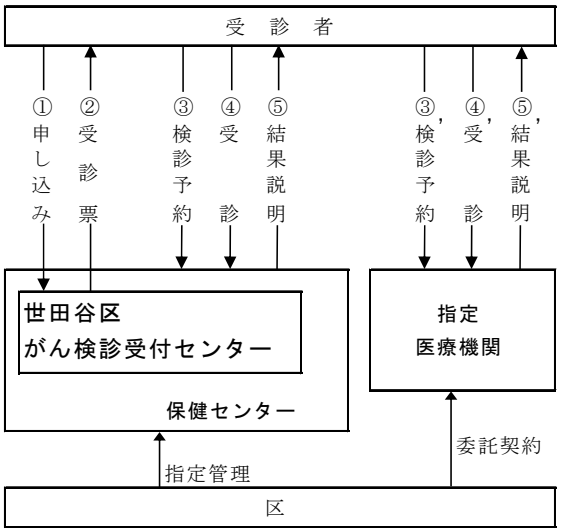
注）疾病は一人一疾病

⑵　胃がん（内視鏡）検診

世田谷区では50歳以上の区民（１年に１回）を対象に胃内視鏡検診を指定医療機関に委託して行っている。保健センターは、指定医療機関（区内90機関のひとつ）として区から委託を受け、胃内視鏡検診を実施しており、受診した方には、自院読影によるダブルチェックの後に全員対面で結果を説明している。

また、国のガイドラインに則った検診を整備するために、区は「胃内視鏡検診運営委員会」を設置した。保健センターから委員を選出するとともに同委員会の事務局支援にも携わっている。

◎胃がん（内視鏡）検診実施流れ図



令和３年度は、１年間に 35 回の検診を実施し、受診者は 147 名でがんの発見は０人であった。

◎胃がん（内視鏡）検診　男女・年齢別受診者状況

区分	合計			男性			女性			がん発見数	
	人数	要精検数	要精検率(%)	人数	要精検数	要精検率(%)	人数	要精検数	要精検率(%)	男	女
総　　数	**147**	**4**	**2.72%**	**60**	**2**	**3.33%**	**87**	**2**	**2.30%**	**0**	**0**
50～54歳	21	0	0.00%	6	0	0.00%	15	0	0.00%	0	0
55～59歳	9	0	0.00%	7	0	0.00%	2	0	0.00%	0	0
60～64歳	31	2	6.45%	9	1	11.11%	22	1	4.55%	0	0
65～69歳	26	0	0.00%	11	0	0.00%	15	0	0.00%	0	0
70歳以上	60	2	3.33%	27	1	3.70%	33	1	3.03%	0	0

◎胃がん（内視鏡）検診　受診者状況と推移

区分 ＼ 年度	受診数 A	要精検者数 B (B/A %)	精検受診者数 C (C/B %)	がん発見数 D (食道がん)	早期がん数 E (E/D %)	がん発見率 (D/A %)
平成29年	106	6 (5.7)	6 (100.0)	3	1 (33.3)	(2.83)
30年	197	4 (2.0)	4 (100.0)	3	2 (66.6)	(1.52)
令和元年	155	5 (3.2)	5 (100.0)	0	0 (0.0)	(0.00)
2年	144	12 (8.3)	12 (100.0)	1	1 (100.0)	(0.69)
3年	**147**	**4 (2.7)**	**4 (100.0)**	**0**	**0 (0.0)**	**(0.00)**

＊平成 29 年度　検査実施期間：平成 29 年 10 月～平成 30 年 3 月

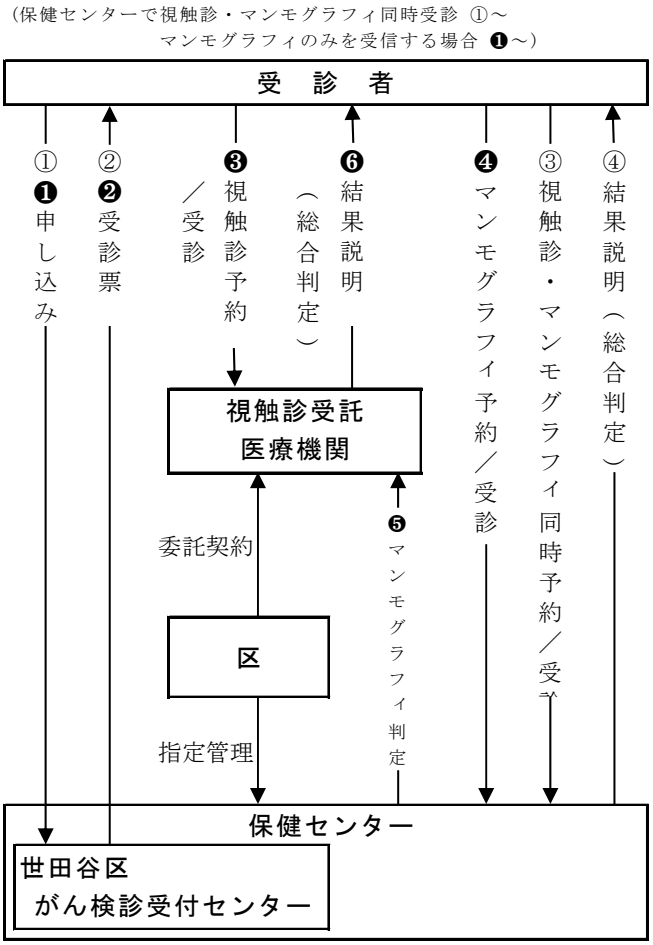
3　乳がん検診

世田谷区では、40 歳以上の女性区民（2 年に 1 回）を対象とし、視触診とマンモグラフィ（乳房エックス線撮影）の併用受診を指定医療機関に委託して行っている。

保健センターでは、視触診を地域医療機関で受けマンモグラフィのみを受診する場合と、視触診・マンモグラフィを同時に行う場合の 2 つの受診パターンを整えて検診を実施している。

また、日本乳がん検診精度管理中央機構認定の女性診療放射線技師と医師を配置し、施設内で読影認定資格を持つ医師による二重読影体制が取れている数少ない機関となっている。さらに施設としても同機構より施設認定を取得し、質の高い検診体制を維持している。

◎乳がん検診実施流れ図



なお、マンモグラフィにおいて 40 歳代は左右の乳房を各 2 方向、50 歳以上は左右各 1 方向の撮影を行っている。

マンモグラフィのみ受診した方の読影結果は視触診医療機関へ送付し（総合判定及び結果説明を視触診医療機関で実施）、視触診同時受診の場合はマンモグラフィと総合判定結果を本人宛に通知するとともに、要精検対象者には直接医師が説明を行っている。

◎乳がん検診受診状況の推移

区分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和 2 年度		令和 3 年度	
	回数	受診人数	回数	受診人数	回数	受診人数	回数	受診人数	回数	受診人数
マンモグラフィのみ	74	454	81	309	78	225	47	159	25	122
視触診･マンモグラフィ同時受診	95	958	99	1,118	93	1,093	82	1,009	93	1,226
計	**169**	**1,412**	**180**	**1,427**	**171**	**1,318**	**129**	**1,168**	**118**	**1,348**

＜乳がん検診からの判定状況＞

◎マンモグラフィのみ受診者のマンモグラフィカテゴリー分類

区分	マンモグラフィカテゴリー分類						
	C1	C2	C3	C4	C5	N	受診者数
総　数	**86**	**20**	**15**	**1**	**0**	**0**	**122**
40～44 歳	13	3	1	0	0	0	17
45～49 歳	12	3	2	1	0	0	18
50～54 歳	6	3	3	0	0	0	12
55～59 歳	13	3	3	0	0	0	19
60～64 歳	20	2	3	0	0	0	25
65～69 歳	7	1	2	0	0	0	10
70 歳以上	15	5	1	0	0	0	21

※総合判定は、視触診医療機関が行う。

◎カテゴリー分類説明
C1:正常
C2:良性
C3:良性しかし悪性を否定できず
C4:悪性の疑い
C5:悪性
N :読影不能
(C3～C5:要精検対象)

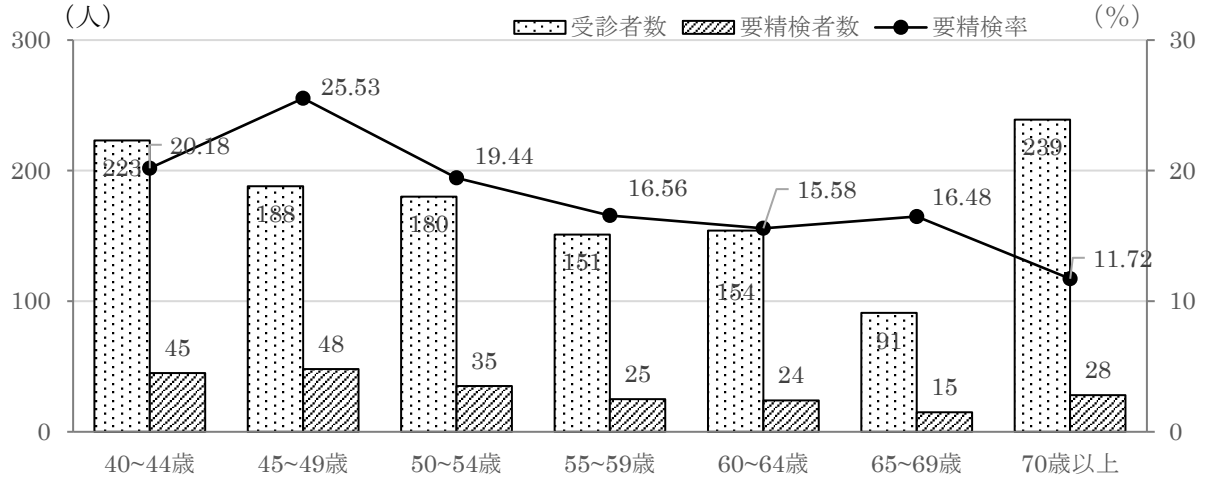
◎視触診・マンモグラフィ同時受診者の総合判定における要精検状況とカテゴリー分類

区分	合計			マンモグラフィのカテゴリー分類					
	人　数	要精検者数	要精検率(%)	C1	C2	C3	C4	C5	N
総　数	**1,226**	**220**	**17.94**	**848**	**176**	**183**	**16**	**3**	**0**
40～44 歳	223	45	20.18	152	31	38	2	0	0
45～49 歳	188	48	25.53	120	24	39	4	1	0
50～54 歳	180	35	19.44	121	25	31	3	0	0
55～59 歳	151	25	16.56	105	23	21	2	0	0
60～64 歳	154	24	15.58	111	22	21	0	0	0
65～69 歳	91	15	16.48	63	14	10	3	1	0
70 歳以上	239	28	11.72	176	37	23	2	1	0

※マンモグラフィでは異常ないが、視触診の所見により 13 人が要精検と判定されている。

＜乳がん検診からの精密検査＞

◎視触診・マンモグラフィ同時受診　年齢別受診者数と要精検率



4　がん検診等精度管理

保健センターでは、地区医師会で実施したがん検診の精度管理業務を段階的に拡充していく区の計画にもとづき、５つの対策型がん検診すべての精度管理と胃がんリスク（ABC）検査について集計業務を実施している。

		令和３年度			令和２年度		元年度
		計画	実績	達成率	計画	実績	実績
医師会実施大腸がん検診精度管理	一次検診集計件数	50,000件	46,946件	93.9%	50,000件	44,190件	46,710件
	精密検査集計件数	2,000件	1,603件	80.2%	2,000件	1,739件	1,619件
医師会実施胃がん検診精度管理	一次検診集計件数	8,600件	9,020件	104.9%	8,600件	6,083件	6,770件
	精密検査集計件数	100件	45件	45.0%	100件	33件	76件
医師会実施肺がん検診精度管理	一次検診集計件数	65,000件	56,992件	87.7%	65,000件	54,818件	58,840件
	精密検査集計件数	1,500件	987件	65.8%	1,500件	1,286件	1,370件
医師会実施子宮がん検診精度管理	一次検診集計件数	40,000件	41,054件	102.6%	40,000件	34,696件	34,461件
	精密検査集計件数	600件	325件	54.2%	600件	455件	429件
医師会実施乳がん検診精度管理	一次検診集計件数	25,000件	22,010件	88.0%	25,000件	18,697件	19,971件
	精密検査集計件数	1,500件	1,494件	99.6%	1,500件	1,529件	1,408件
医師会実施胃がんリスク（ABC）検査集計業務	一次検診集計件数	9,500件	7,151件	75.3%	9,500件	7,731件	8,236件
	精密検査集計件数	1,500件	643件	42.9%	1,500件	885件	927件

※　医師会実施がん検診精度管理の実績は、令和３年度中に記録処理を行った数である。
（一次検診のデータ取得には、検診日から3か月以上の期間を要する。）

5　がん相談

がん患者とその家族などに対して、がんの不安や、在宅療養のこと、医療費軽減などの支援制度、がん患者の就労など各種相談に対応した。令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言中の 4 月 25 日から 5 月 31 日まで「がん情報コーナー」を休止し電話対応に切り替えた。

（1）がん相談

「対面相談」は看護師による専門相談を第 2・4 週の土曜日、「電話相談」は木曜日の第 1・3 週は看護師による専門相談、第 2・4 週はがん体験者によるピア相談を実施した。「就労相談」は看護師に社会保険労務士も加わり、治療と就労の両立支援として 10 月と 2 月に実施し、地域での「出張相談」を 11 月に烏山区民センター広場での年金・労働相談会と連携し実施した。令和 3 年度は、地域での「出張相談」に新たに中央図書館での対面相談を加え、図書館のがんのテーマ本コーナーと連携し 9 月に実施した。

（2）がん情報コーナーと「一次相談窓口」

がんに関する書籍やリーフレット等の閲覧ができる「がん情報コーナー」は、平日午前 9 時から午後 5 時の利用としている。また、予約不要の「一次相談窓口」は来所者から相談の申し出があった場合は、傾聴し必要に応じて説明や情報提供、助言、対面相談の予約を行った。

（3）相談件数と相談内容

対面相談 33 件（同時に実施した就労相談 5 件）、電話相談 47 件（専門相談 34 件、ピア相談 13 件）、一次相談 33 件であった。

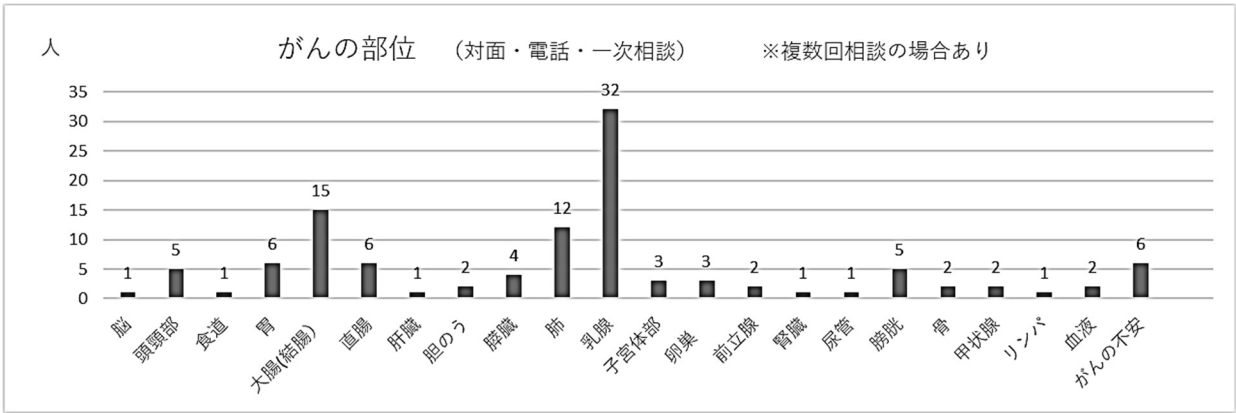
いずれの相談でも患者の男女比は女性が多く、40 代から 80 代以上まで幅広い年齢層であった。相談者の内訳は対面・電話相談ではがん患者本人からの相談が最も多かったのに対して、一次相談では家族からの相談が多かった。また、対面相談では家族同伴の相談も多くみられた。

がんの種類は乳がんが 32 件と最も多く、次いで大腸（結腸）がん 15 件、肺がん 12 件であった。がんの種類は多岐にわたっており、脊索腫（脳腫瘍）や悪性リンパ腫などの希少がんの症例もみられた。

コロナ禍においても不安や療養生活についての相談先として活用され、前年度と比べて相談件数が増加していた。

患者内訳	対面	電話	一次
男（人）	14	7	10
女（人）	19	40	23

相談者内訳	対面	電話	一次
本人のみ（件）	14	36	14
家族同伴（件）	12		3
家族のみ（件）	7	11	16



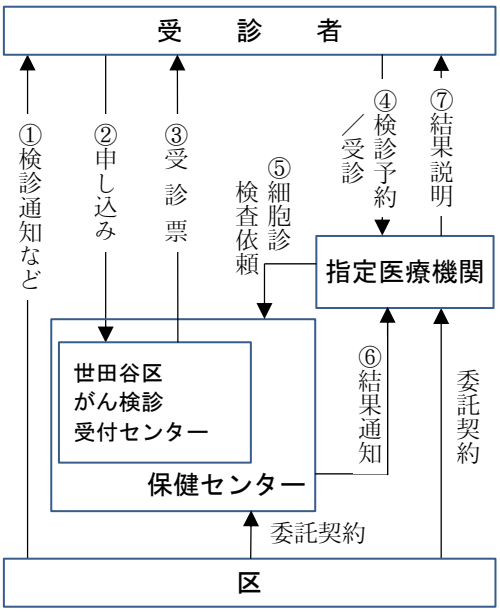
Ⅱ　検体検査事業

1　子宮がん検診（頸部・体部）

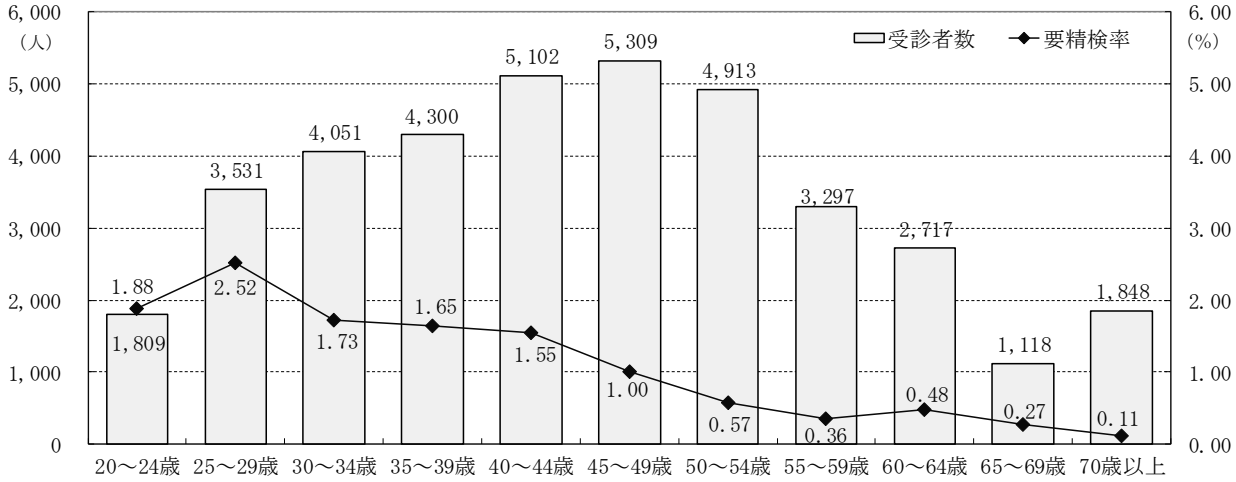
20歳以上の女性区民を対象として、区内指定医療機関（検診実施機関）で問診・視診・細胞診及び内診が行われる。保健センターは区から細胞診検体検査を受託し、検診実施機関で採取・固定された細胞標本の染色を行い顕微鏡下で観察している。検体の顕微鏡検査は細胞検査士及び細胞診専門医により結果は判定されている。

細胞診の結果は標本の適正評価を行い、ベセスダシステムによる分類で精密検査の必要性を決定し、速やかに検診実施機関に通知している。精密検査が必要とされた方には、医療機関と連携を取りながら保険診療によるコルポスコープ（膣拡大鏡）や病理組織検査等の精密検査を実施している。

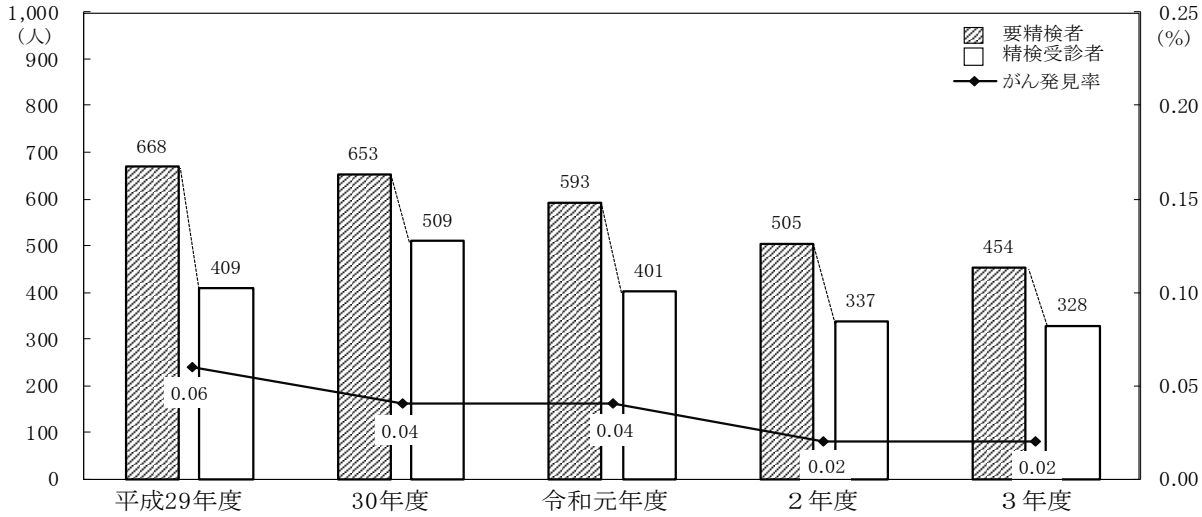
◎子宮がん検診実施流れ図



◎子宮頸部がん検診　年齢別受診者数と要精検率



◎子宮頸部がん検診　精密検査実施状況とがん発見率



◎子宮がん検診 受診者状況と推移

年度	受診者数A		要精検者数B (B／A%)	精検受診者数C (C／B%)	がん発見数D	がん発見率 (D／A%)
29	頸部	31,370	668 (2.1)	515 (77.1)	19	0.06
	体部	2,867	40 (1.4)	31 (77.5)	1	0.03
30	頸部	31,649	653 (2.1)	509 (77.9)	13	0.04
	体部	3,202	74 (2.3)	60 (81.1)	5	0.16
令和元	頸部	30,240	593 (2.0)	401 (67.6)	11	0.04
	体部	2,963	35 (1.2)	29 (82.9)	2	0.07
2	頸部	33,153	505 (1.5)	337 (66.7)	7	0.02
	体部	3,519	55 (1.6)	37 (67.3)	9	0.26
3	**頸部**	**37,995**	**454 (1.2)**	**328 (72.2)**	**9**	**0.02**
	体部	**4,044**	**50 (1.2)**	**35 (70.0)**	**7**	**0.17**

（注）精検結果の把握は翌年度末までの１年間行っており、把握できた追跡調査データは前年度実績に加え修正している。なお、平成30年度より健康増進事業報告にもとづき「がん発見数」から上皮内がん（0 期）を除外している。

3 年度の頸部がん検診受診者数は37,995人で、前年と比べ増加した。細胞診異常と判定された要精検者数は頸部454人で要精検率は1.2%であった。追跡調査による精検受診率は72.2%と低かった。これは、ASC-US 判定後の HPV 検査結果等の結果把握に時間を要し、精検医療機関への紹介後未把握が増えているためと思われ、今後も引き続き把握に努める。

要精検率は20歳代2.3%、30歳代は1.7%と高くこの年代から扁平上皮内病変が多く検出されている。なお、がん発見数は頸部 9 人、体部 7 人で、がん発見率は頸部0.02%、体部0.17%、陽性反応適中率は頸部2.0%体部14.0%であった。子宮頸部がん検診のがん発見症例の内訳は、上皮内腺がん 2 人、頸部腺がん 1 人、体部腺がん 1 人、扁平上皮がん 5 人であった。また、がん発見数から除外された上皮内がん（高度扁平上皮内病変）は 3 人発見された。

＜子宮がん検診からの精密検査＞

子宮がん検診要精密検査対象者のうち、当センターでの精密検査の受診者は51人であった。精密検査結果の疾病内訳は一人一疾病として表に示す。

◎子宮がん検診 年齢別受診者状況

年　齢	頸　部　が　ん　検　診			体　部　が　ん　検　診		
	受診者数	要精検者数(%)	がん発見数	受診者数	要精検者数(%)	がん発見数
総　　数	**37,995**	**454 (1.19)**	**9**	**4,044**	**50 (1.24)**	**7**
20～24歳	1,809	34 (1.88)	0	3	0 (0.00)	0
25～29歳	3,531	89 (2.52)	1	24	0 (0.00)	0
30～34歳	4,051	70 (1.73)	0	72	4 (5.55)	0
35～39歳	4,300	71 (1.65)	3	182	1 (0.55)	0
40～44歳	5,102	79 (1.55)	1	481	12 (2.49)	1
45～49歳	5,309	53 (1.00)	0	891	11 (1.23)	0
50～54歳	4,913	28 (0.57)	1	1,134	13 (1.15)	3
55～59歳	3,297	12 (0.36)	1	605	2 (0.33)	1
60～64歳	2,717	13 (0.48)	1	332	5 (1.51)	1
65～69歳	1,118	3 (0.27)	0	122	1 (0.82)	1
70歳以上	1,848	2 (0.11)	1	198	1 (0.51)	0

◎子宮頸部がん検診　年齢別細胞診結果（ベセスダシステム報告）

年齢	NILM	ASC-US	ASC-H	LSIL	HSIL	SCC	AGC	AIS	Adeno-carcinoma	その他の悪性腫瘍
総　数	37,541	84	59	175	112	3	19	0	2	0
20～24歳	1,775	9	1	22	2	0	0	0	0	0
25～29歳	3,442	28	6	43	11	0	1	0	0	0
30～34歳	3,981	6	15	27	20	0	2	0	0	0
35～39歳	4,229	12	8	19	27	1	3	0	1	0
40～44歳	5,023	11	13	34	17	1	3	0	0	0
45～49歳	5,256	12	4	15	18	0	4	0	0	0
50～54歳	4,885	3	5	13	5	0	2	0	0	0
55～59歳	3,285	0	3	1	6	0	1	0	1	0
60～64歳	2,704	1	3	1	6	1	1	0	0	0
65～69歳	1,115	1	1	0	0	0	1	0	0	0
70歳以上	1,846	1	0	0	0	0	1	0	0	0

（頸部不適正検体は3件でうち3件は再検査提出あり）

【扁平上皮系】

結果	略語	推定される病理診断※1	クラス分類※2	取扱い(参考)
1)陰性	NILM	非腫瘍性所見 炎症	Ⅰ・Ⅱ	異常なし:定期健診
2)意義不明な 異型扁平上皮	ASC-US	軽度扁平上皮内病変疑い※3 説明:「判定が難しい」 「鑑別が困難である」	Ⅱ/Ⅲa	要精検: ①HPV検査による判定が望ましい 陰性:1年後に細胞診 陽性:コルポスコピー、生検 ②HPV検査非施行 6か月以内の細胞診再検査
3)高度扁平上皮内病変 を除外できない 異型扁平上皮細胞	ASC-H	高度扁平上皮内病変疑い※4 説明:「高度病変を疑う」	Ⅲa/Ⅲb	要精検:コルポスコピー、生検
4)軽度扁平上皮内病変	LSIL	HPV感染CIN1（軽度異形成)※5	Ⅲa	
5)高度扁平上皮内病変	HSIL	CIN2(中等度異形成)※5 CIN3(高度異形成/上皮内がん)※4	Ⅲa/ Ⅲb/Ⅳ	
6)扁平上皮がん	scc	扁平上皮がん （ⅠA期のがん※6を含む)	Ⅴ	

【腺系】

7)異型腺細胞	AGC	腺系病変疑い	Ⅲ	要精検:コルポスコピー、生検、頸管及び内膜細胞診又は組織診
8)上皮内腺がん	AIS	上皮内腺がん	Ⅳ	
9)腺がん	Adeno carcinoma	腺がん	Ⅴ	

【その他の悪性腫瘍】

10)その他の悪性腫瘍	Other	その他の悪性腫瘍	Ⅴ	要精検:病変検索

※1 報告書には臨床的取扱の参考にするために、推定される病理組織分類を従来どおり付記することが推奨される。
※2 現行の子宮頸がん検診でクラス分類は用いられない。
※3 軽度扁平上皮内病変(LSIL)疑い(否定できない)。全報告の5%以下で有ることが期待される。ハイリスクHPVが約50%に検出される。約10～20%はCIN2-CIN3(中等度一高度異形成、上皮内がん)と最終診断される。
※4 高度扁平上皮内病変(HSIL)疑い(否定できない)。全ASCの10%以下であることが期待される。CIN2(中等度異形成)以上と最終診断される割合がASC-USより高い。
※5 子宮頚癌取扱い規約第3版(2012年4月)からCIN:cervical intraepithelial neoplasia(子宮頸部上皮内腫瘍)が用いられるようになった。
※6 子宮頚癌取扱い規約第4版(2017年7月)から、微小湿潤扁平上皮がんと微小浸潤腺がんが削除され、それぞれ扁平上皮がんと腺がんに含まれることになったので、従来の微小浸潤がんはIA期がんと表記されることになった。

慶應義塾大学医学部産婦人科学教室　青木　大輔教授(東京都生活習慣病検診管理指導協議会がん部会委員)提供資料より

◎子宮がん検診 精密検査年齢別疾病分類（保健センター実施分）

区　　分	総数	20～29歳	30～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上
受診者数	51	16	20	6	1	5	1	2	0	0
異常なし	8	4	2	1	0	1	0	0	0	0
扁平上皮がん	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0
体部腺がん	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
上皮内腺がん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
CIN3(上皮内がん)	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0
CIN3(高度異形成)	8	2	5	1	0	0	0	0	0	0
CIN2(中等度異形成)	15	3	11	0	0	0	1	0	0	0
CIN1(軽度異形成)	13	6	2	2	1	2	0	0	0	0
頸管炎	4	1	0	1	0	2	0	0	0	0

注）疾病は一人一疾病

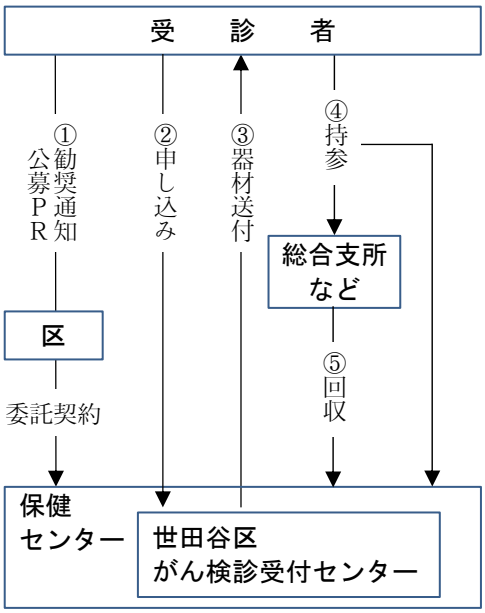
2　大腸がん検診

世田谷区からの委託を受け、40歳以上の区民を対象とした便潜血検査（金コロイド比色法による２日方式）を実施している。令和２年度より表面擦過が容易で精度の安定したブラシ式採便器材を用い、全自動機器による定量法を行っている。

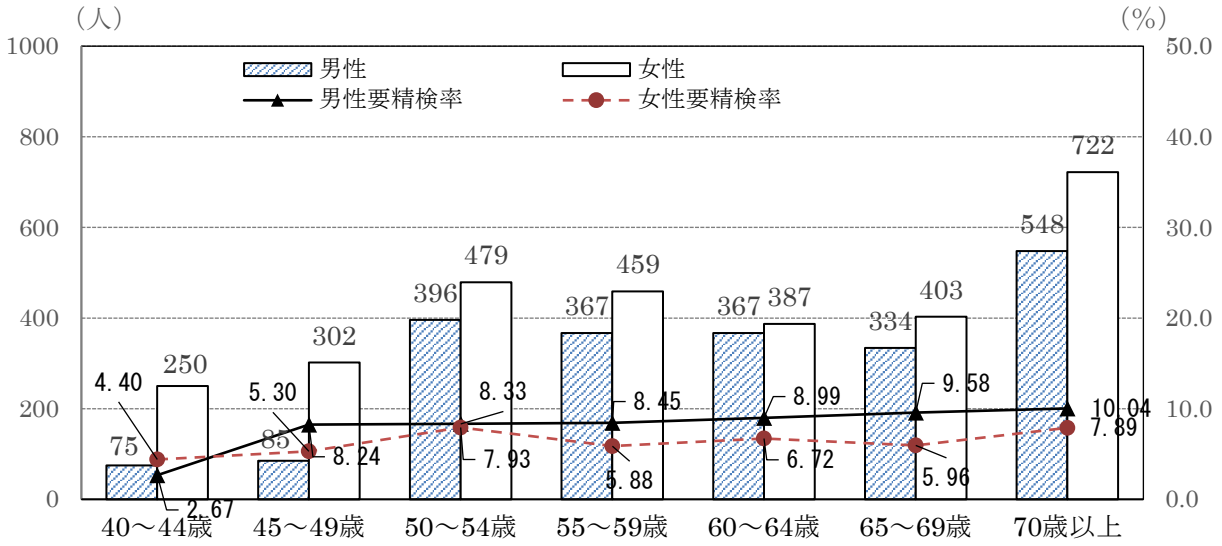
検診結果は、郵送で通知し、個別の質問に対しては別途電話で対応している。

検診の結果、精密検査が必要とされた方（陽性）には、医療機関と緊密な連携を保ちながら、内視鏡および病理組織による精密検査（保険診療）を実施している。

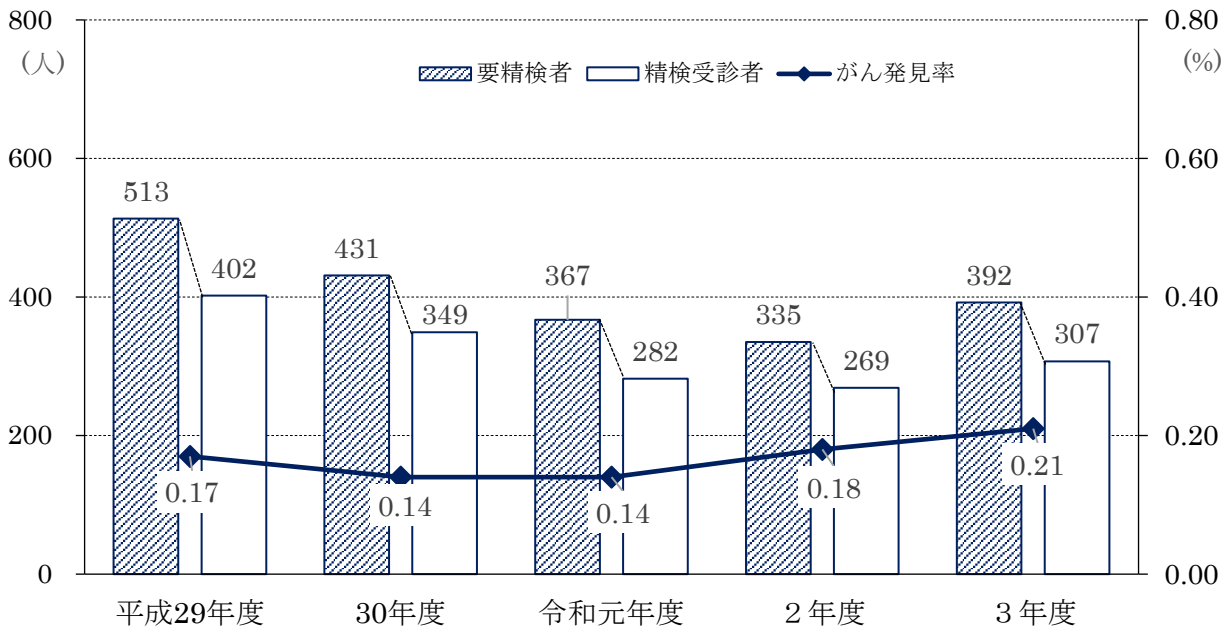
◎大腸がん検診実施流れ図



◎大腸がん検診　男女・年齢別受診者数と要精検率



◎大腸がん検診 精密検査実施状況とがん発見率



◎大腸がん検診 受診者状況と推移

年度	受診者数 A	要精検者数 B (B／A%)	精検受診者数 C (C／B%)	がん発見数 D	早期がん数 E (E／D%)	がん発見率 (D／A%)
29	7,447	513 (6.9)	402 (78.4)	13	5 (38.5)	0.17
30	6,538	431 (6.6)	349 (81.0)	9	4 (44.4)	0.14
令和元	5,704	367 (6.4)	282 (76.8)	10	5 (50.0)	0.18
2	4,558	335 (7.3)	269 (80.3)	9	4 (50.0)	0.20
3	**5,174**	**392 (7.6)**	**307 (78.3)**	**11**	**7 (63.6)**	**0.21**

（注） 精検結果の把握を翌年度末までの１年間行っている。そのため、前年度の報告数に追跡調査のデータを加え修正している。

＜大腸がん検診＞

地域医療機関における長寿健診・特定健診との同時受診が開始されて以来、当センターの取り扱い検体数は年々減少している。令和３年度実績は5,174人で、精密検査が必要とされた方は、392人（要精検率7.6%）である。このうち追跡調査で把握できた精検受診者数は307人（受診率78.3%）、がん発見者数は11人（発見率0.21%、陽性反応適中度は3.6%）であった。

受診者の性別構成は、男性2,172人女性3,002人でありこれまでと同様に女性の割合が高い。受診者数の年齢分布は50歳代から多くなり、高齢者の受診割合が高い。要精検率は7.58%で、男性では45歳以上で高くなる傾向が見られた。また、男女の要精検率は女性の6.63%に対し、男性が8.89%と高かった。

◎大腸がん検診 男女・年齢別受診者状況

区分	合　計			男　性			女　性		
	人　数	要精検数	要精検率	人　数	要精検数	要精検率	人　数	要精検数	要精検率
総　数	**5,174**	**392**	**7.58%**	**2,172**	**193**	**8.89%**	**3,002**	**199**	**6.63%**
40～44歳	325	13	4.00	75	2	2.67	250	11	4.40
45～49歳	387	23	5.94	85	7	8.24	302	16	5.30
50～54歳	875	71	8.11	396	33	8.33	479	38	7.93
55～59歳	826	58	7.02	367	31	8.45	459	27	5.88
60～64歳	754	59	7.82	367	33	8.99	387	26	6.72
65～69歳	737	56	7.60	334	32	9.58	403	24	5.96
70歳以上	1,270	112	8.82	548	55	10.04	722	57	7.89

＜大腸がん検診からの精密検査＞

大腸がん検診要精密検査対象者のうち、当センターでの精密検査の受診者は13人で、精検受診が把握されたうちの4.2%である。年齢別受診者数、がん発見数等の内訳は表に示す。

◎大腸がん検診 精密検査男女・年齢別疾病分類（保健センター実施分）

区分	総数	人数		40～44歳		45～49歳		50～54歳		55～59歳		60～64歳		65～69歳		70歳以上	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
受診者	13	9	4	0	0	1	1	1	0	0	0	4	0	2	2	1	1
大腸がん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大腸がん疑い	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
大腸ポリープ	9	7	2	0	0	0	1	1	0	0	0	3	0	2	1	1	0
大腸炎	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大腸憩室	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
異常なし	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0

注）疾病は一人一疾病

Ⅲ　健康増進事業（区指定管理）

健康度測定、運動負荷測定では、健康チェックや日常生活のアドバイスなどを行い、個別指導を行っている。今年度も、健康度測定に関わる各専門職が指導内容を検討し、より専門性の高いサービスを提供するとともに、安心・安全な受診環境と検査待ち時間の軽減による円滑な実施を目指している。

健康増進指導では、心とからだの健康づくりを推進する講座・教室の集団指導と個々へのフォローに個別相談を実施した。また、壮年期世代の支援として夜間および土曜日に講座を開催した。さらに、運動指導員の派遣指導、健康づくり支援リーダーの育成に取り組んだ。

1　健康度測定・再測定（指定管理）

（1）測定の内容

18 歳以上の区民を対象に「心とからだの健康づくり」を目的とした健康度測定を実施した。

測定内容は一般的な健診に加え、体成分測定、負荷心電図、呼吸機能検査（令和３年度は感染症対策のため中止）、眼底検査、生活状況調査、体力測定とこれらの結果に基づいた医師の結果説明や休養・栄養・運動の個別カウンセリングを実施している。

受診者には生活習慣改善のきっかけづくりや継続の手助けとして「健康増進指導」への参加も勧めている。さらに、継続的な健康管理や効果確認のため、６ヵ月後の再測定の機会を設けている。

また、他医療機関で受診した健診結果（区の特定健診相当の検査内容）を活用し、一日の受診で済む「測定料金の減額措置（半額）」を設け、利用者の利便性の向上と受診方法の多様化を図った。

◎健康度測定の内容と流れ

一次測定　※*斜字は他医療機関データ利用可*

検査項目	
尿検査	*糖・蛋白・潜血・ｹﾄﾝ*体など8項目
胸部ﾚﾝﾄｹﾞﾝ	*正面（直接撮影）*
血液一般	*赤血球数・Hb・Ht・白血球数、血小板数*
血液生化学	*血糖・HbA1c、AST、ALT*
	LDLｺﾚｽﾃﾛｰﾙ、中性脂肪、
	尿素窒素、ｸﾚｱﾁﾆﾝ、e-GFR、
	ｱﾐﾗｰｾﾞ、血清鉄など20項目
眼底検査	*両眼*
安静心電図	標準12誘導
呼吸機能	%肺活量、1秒率など
視力検査	遠見（5m）　裸眼・矯正
身体計測	身長、体重、標準体重、BMI、腹囲、
体成分分析測定	体脂肪率、内臓脂肪レベル、
	骨格筋肉量と筋肉ﾊﾞﾗﾝｽ
問診（調査票と聞きとり）	
休養	既往歴、生活リズム、愁訴
	ストレスチェックなど
栄養	簡易食物摂取調査
	食習慣調査
運動	活動状況調査
	運動習慣調査

二次測定

検査項目	
診察	問診・聴診
血圧測定	自動血圧計
負荷心電図	（マスター2階段法）
体力測定	筋力・動的バランス・柔軟性・持久力
↓	
総合判定	
医師からの結果説明	
↓	
個人カウンセリング	

《休養》　保健師・看護師

自身を心と体の両面から客観視し、気づかなかった自分に気づき、生活リズムの改善や行動変容のポイントをアドバイスする

《栄養》　管理栄養士

問診で得られた情報から現在の食生活の状態を知ってもらい、検査結果を踏まえたうえで、実行しやすい改善方法をアドバイスする。

《運動》　運動指導員

一人ひとりに適した運動の強さや量、活動面からの改善点、体力を向上させたり、柔軟性・筋力を高める運動、腰痛・ひざ痛予防の体操などをアドバイスする。

（２）受診者の状況と結果の判定比

①受診者数

令和３年度は健康度測定 567 人、再測定９人の合計 576 人が受診した。（１次測定受診数）

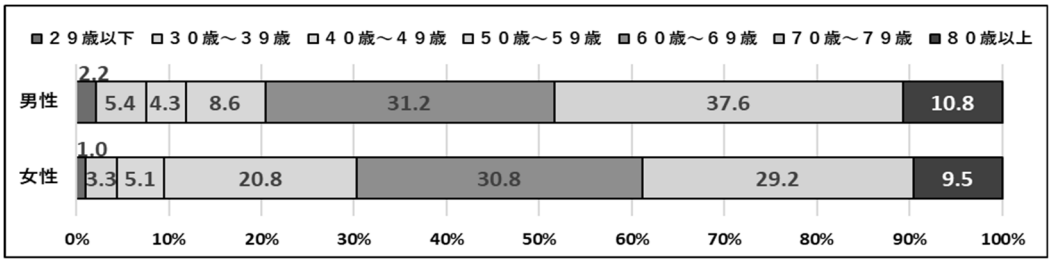
外部データの有効活用と利用者の負担軽減のため、他医療機関で受診した一定の条件の健診結果を持参できる方に「減額措置（半額）」制度を設けているが、令和３年度の利用は 81 人（14%）で、例年と比較して利用率が減少していた。

②年齢・男女構成

男女構成比は男性 186 人(32.3%)、女性 390 人(67.7%)で、前年度同様に女性の受診が多かった。

年代別では、男性は 70 歳代が 37.6%と最も多く、次いで 60 歳代が 31.2%であった。女性は 60 歳代が 30.8%、70 歳代が 29.2%であった。男女合わせた 60 歳以上の割合は 72.7%（男性 79.6%、女性 69.5%）で前年度に比べて男性は 6.8 ポイント増加、女性は 3.2 ポイント減少していた。

◎受診者の年齢構成比



③結果の判定比（令和３年４月１日～令和４年３月 31 日に１次測定を受診した 576 人）

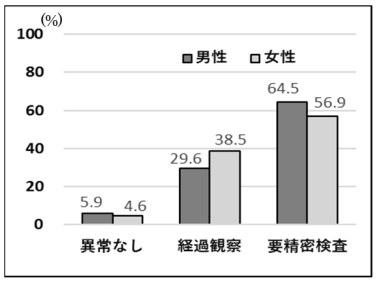
男女別の判定比では、「要精密検査」が男性は 64.5%、女性は 56.9%で男性の方が高率であった。

年代別判定比での「要精密検査」の割合は、男性では 40 歳代 62.5%、70 歳代 71.4%、80 歳代以上 60.9%と高い割合であった。女性は 60 歳代 59.2%、70 歳代 62.3%、80 歳代 62.2%であった。前年度に比べ男性の「要精密検査」の割合は 12.3 ポイント、女性は 2.3 ポイントそれぞれ増加していた。

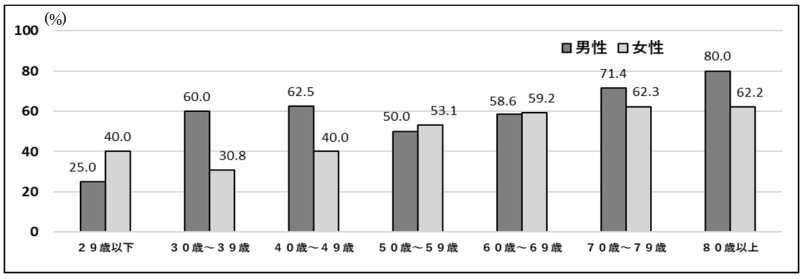
◎年齢・性別・判定別集計表

年齢 / 性別 / 判定	合計			２９歳以下			３０歳～３９歳			４０歳～４９歳			５０歳～５９歳			６０歳～６９歳			７０歳～７９歳			８０歳以上		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
異常なし	11	18	29	2	1	3	2	3	5	0	1	1	3	4	7	3	6	9	1	2	3	0	1	1
経過観察	55	150	205	1	2	3	2	6	8	3	11	14	5	34	39	21	43	64	19	41	60	4	13	17
要精密検査	120	222	342	1	2	3	6	4	10	5	8	13	8	43	51	34	71	105	50	71	121	16	23	39
合　計	**186**	**390**	**576**	**4**	**5**	**9**	**10**	**13**	**23**	**8**	**20**	**28**	**16**	**81**	**97**	**58**	**120**	**178**	**70**	**114**	**184**	**20**	**37**	**57**

◎男女別判定比



◎年代別要精密検査の割合



（３）個別カウンセリングの実施状況（令和３年度に２次測定を受診した 472 人）

生活状況の調査結果と医師の総合判定に基づき、一人ひとりの状況に合わせて、こころと体の健康づくりをめざしアドバイスや支援を行った。

実施割合は休養・栄養・運動とも９割以上であった。

（二次測定受診者数472人中）	休養	栄養	運動
カウンセリング受診者数（人）	459	457	459
実　施　割　合（%）	97.2	96.8	97.2

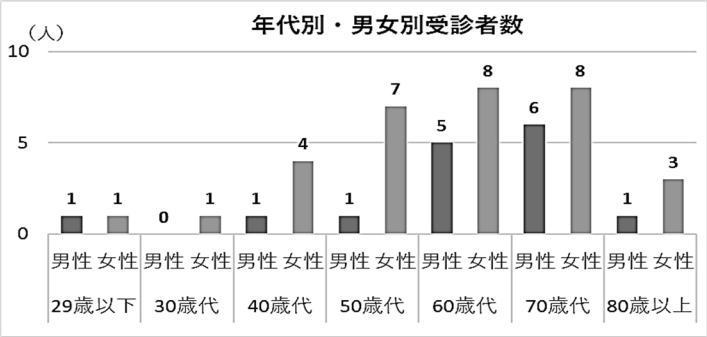
２　運動負荷測定・運動処方（指定管理）

トレッドミルによる運動負荷測定は、安静心電図では見つけにくい狭心症などの虚血性心疾患や不整脈の診断をおこなうことを目的に実施している。また、安全に運動を行う上での至適運動量を推定することもできる。測定対象者は、健康度測定や区内医療機関にて心疾患が疑われ精密検査を指示された方、健康診断結果を有していてこれから運動を始めるにあたり運動中の心機能の状態を知りたい方やマシントレーニング・有酸素運動での強度を知りたい方である。

（１）受診状況

受診者数は 47 人で、男性 15 人（平均年齢 62.3 歳）、女性 32 人（平均年齢 62.9 歳）で女性が 68.1%を占めていた。年齢別では 70 歳代が多く 30%を占めた。

申し込み内容は、健康度測定からの受診が 7 人（14.9%）、医療機関からの紹介が 7 人（14.9%）、個人での申込みが 33 人（70.2%）であった。

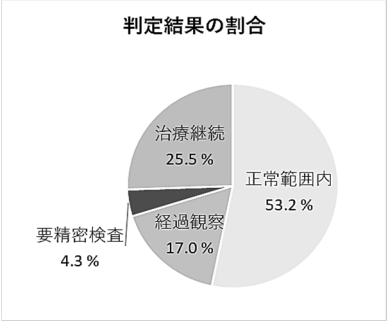


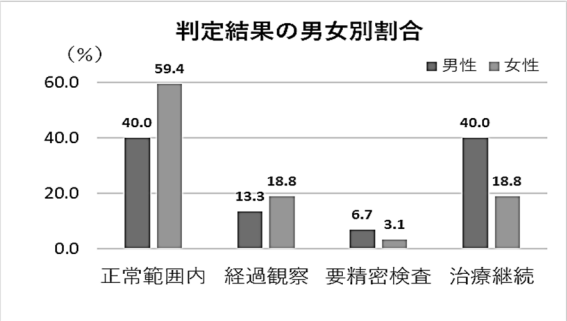
申し込み方法	人数（人）	割合（%）
健康度測定	7	14.9
医療機関	7	14.9
個人	33	70.2
合計	47	100.0

（２）判定結果

全体判定比では、正常範囲内は 53.2%、経過観察 17%、要精密検査 4.3%、治療継続 25.5%であった。男女別にみると、男性の正常範囲内と治療継続が同比率の 40%と多く、女性は正常範囲内が 59.4%と一番多かった。要精密検査は、男女ともに 1 人であった。

年齢	合計			29歳以下			30歳～39歳			40歳～49歳			50歳～59歳			60歳～69歳			70歳～79歳			80歳以上		
区分	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
正常範囲内	6	19	25	1	1	2	0	1	1	0	3	3	1	4	5	2	3	5	2	6	8	0	1	1
経過観察	2	6	8	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	2	2	1	2	3	0	1	1	0	0	0
要精密検査	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	0	0	0
治療継続	6	6	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2	4	3	1	4	1	2	3
合　計	15	32	47	1	1	2	0	1	1	1	4	5	1	7	8	5	8	13	6	8	14	1	3	4





（３）運動処方

運動処方は、医師の処方に基づき安全で効果的な運動強度を自転車エルゴメーターで体験する。運動負荷測定受診者 47 人のうち、男性 9 人（平均 68.7 歳）、女性 21 人（平均 69.1 歳）の 30 人に運動処方を実施した。（実施率 63.8%）

3　健康増進指導（講座・教室）（指定管理）

(1) 受講者内訳と利用状況

令和３年度は総合的な健康づくり教室をはじめ、壮年期世代対象講座・栄養講座・休養講座、また、障害者の健康づくりとして、安全で効率よく運動が進められるマシンを使用した教室、外部で健康診断を受診した区民に、個々に応じたアドバイスを行う個別相談など、58 講座・教室を全 396 回開催し、延べ 6,917 人に対して健康づくり指導を行なった。（緊急事態宣言により 60 回中止）コロナ禍における感染予防対策として定員を一人当たり 6 ㎡（途中から 4 ㎡）に定員を削減して開催した。実人数の性別年齢別の利用状況では、男女とも 70 歳代の利用者が一番多かった。60 歳以上の利用者割合は男性 84.5%、女性 69.2%、男女合計では 71.7%を占めた。

また、59 歳以下の方の利用者は、男性 15.4%、女性 30.7%、男女合計では 28.2%となり、前年度の 16.3%から 11.9 ポイント上昇した。令和 2 年度はコロナ禍において低体力を予防するため 65 歳以上を対象としていたが、今年度は従来の壮年期世代にも参加しやすいプログラムにしたことが影響したと思われる。平均年齢は、男性 68.9 歳、女性 66.6 歳であった。

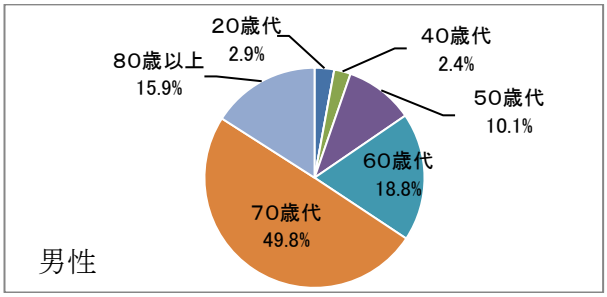
59 歳以下を対象とした壮年期講座では、土曜講座 15 回、夜間講座 26 回、全 41 回を開催し実人数 194 人、延べ 838 人が受講した。

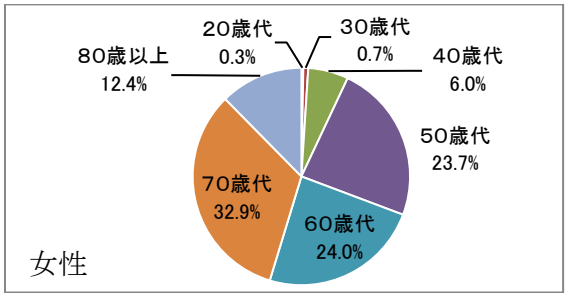
80 歳以上の高齢者は、男性 33 人、女性 134 人、合計 167 人の方が利用され、全体の 12.9%を占めた。高齢な方でも安心して効果的な指導を受けられる環境を提供している結果と思われる。

◎年代・男女別、教室利用人数

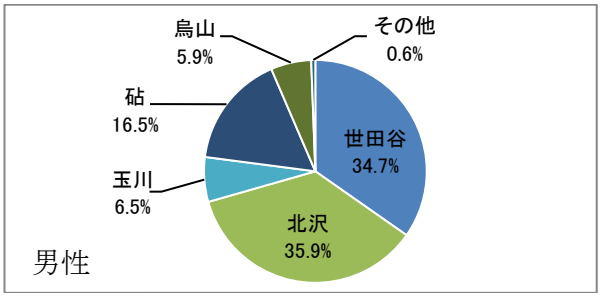
事業分類	一般教室						壮年期教室（59歳以下）						合計					
	実人数			述べ人数			実人数			述べ人数			実人数			述べ人数		
年代	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
20歳代	5	2	7	15	6	21	1	1	2	6	1	7	6	3	9	21	7	28
30歳代	0	1	1	0	4	4	0	7	7	0	25	25	0	8	8	0	29	29
40歳代	3	24	27	7	127	134	2	41	43	6	167	173	5	65	70	13	294	307
50歳代	5	131	136	25	703	728	16	126	142	70	563	633	21	257	278	95	1,266	1,361
										59歳以下合計			32	333	365	129	1,596	1,725
60歳代	39	260	299	222	1,340	1,562							39	260	299	222	1,340	1,562
70歳代	103	357	460	625	1,956	2,581							103	357	460	625	1,956	2,581
80歳以上	33	134	167	234	815	1,049							33	134	167	234	815	1,049
										60歳以上合計			175	751	926	1,081	4,111	5,192
合計	188	909	1,097	1,128	4,951	6,079	19	175	194	82	756	838	207	1,084	1,291	1,210	5,707	6,917

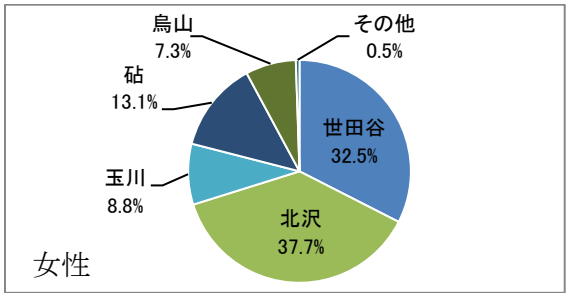
◎年代別受講利用状況（実人数）





◎地域別利用状況





◎令和３年度健康増進指導（講座・教室）全 58 講座一覧表と受講者の内訳

事業名称			曜日	回数	定員	応募	延べ人数			実人数			平均年齢			出席率（%）	1回あたりの人数
							男	女	計	男	女	計	男	女	計		
①トータルな健康づくり	1	健康度測定＆夏までにやせよう教室	月	6	17	28	0	52	52	0	12	12	0	60.2	60.2	72.2	8.7
	2	血圧高めが気になる方の教室	水	12	17	15	1	82	83	1	11	12	74	72.2	72.2	57.6	6.9
	3	女性のための健康づくり教室	火	12	30	30	0	282	282	0	29	29	0	55.9	55.9	81.0	23.5
	4	気楽に体力・筋力づくり教室	月	12	17	39	7	165	172	1	15	16	77	68.3	68.6	89.6	14.3
	5	アクティブエイジの健康プラス1教室	水	12	17	18	33	102	135	5	11	16	74.3	64.6	67.0	70.3	11.3
	6	健康度測定＆血糖コントロール教室	月	14	17	20	79	78	157	8	8	16	70.1	61.7	65.9	70.1	11.2
	7	からだにやさしい教室①	月	7	30	56	36	111	147	6	22	28	79	77.9	78.2	75.0	21.0
	8	からだにやさしい教室②	月	7	30	130	64	106	170	11	18	29	76.1	77.2	76.8	83.7	24.3
	9	からだにやさしい教室③	月	14	30	31	38	213	251	3	19	22	77.4	77.6	77.6	81.5	17.9
	10	からだにやさしい教室④	月	14	30	46	116	231	347	10	18	28	78.3	78.2	78.2	88.5	24.8
	11	からだにやさしい教室⑤	月	14	30	32	80	199	279	7	19	26	76.7	80.2	79.2	76.6	19.9
	12	からだにやさしい教室⑥	月	14	30	38	83	196	279	8	21	29	77.8	80.2	79.5	68.7	19.9
②からだの元気	13	はじめてのバレエストレッチ教室	木	1	30	79	0	28	28	0	28	28	0	61.1	61.1	100.0	28.0
	14	男性のためのヨーガ＆腰痛予防教室	金	1	30	33	12	0	12	12	0	12	70.7	0	70.7	100.0	12.0
	15	中高年のサーキットトレーニング教室	水	5	30	71	13	60	73	3	15	18	69.5	68.4	68.6	81.1	14.6
	16	全身ほどいて動きやすい身体教室	月	5	30	76	4	85	89	1	23	24	74	71.2	71.4	74.2	17.8
	17	はじめてのフラダンス教室	火	8	30	50	0	196	196	0	29	29	0	69.7	69.7	84.5	24.5
	18	呼吸法と気功教室	金	10	30	63	57	169	226	7	21	28	70.8	71.6	71.4	80.7	22.6
	19	ストレッチ＆コンディショニング教室	水	12	30	62	57	213	270	5	23	28	74.2	70.2	71.0	80.4	22.5
	20	100歳でも丈夫な足腰を目指す教室	月	12	30	53	35	236	271	4	26	30	76.3	73.6	73.9	75.3	22.6
	21	太極拳＆脚力アップ教室	木	12	30	254	35	245	280	3	26	29	62.5	61.1	61.3	80.5	23.3
	22	筋力アップ＆リズム体操教室	金	10	30	87	48	193	241	6	24	30	73.7	72	72.4	80.3	24.1
	23	腰痛肩こりとんでけ体操教室	月	12	30	62	55	210	265	6	22	28	69.2	71.7	71.2	78.9	22.1
	24	ストレッチ＆フラダンス教室	火	10	30	69	0	264	264	0	35	35	0	68.2	68.2	75.4	26.4
	25	ヨーガで元気アップ教室	木	10	30	198	22	214	236	4	30	34	70.2	63.1	63.8	69.4	23.6
	26	60歳からの脚力アップ教室	水	12	30	122	103	186	289	11	20	31	71.2	68.6	69.5	77.7	24.1
	27	リズムダンス＆ストレッチ教室	金	8	35	56	24	190	214	3	30	33	73.2	66.9	67.6	81.1	26.8
体験	28	チアダンス体験講座	木	4	30	30	0	93	93	0	26	26	0	66.1	66.1	89.4	23.3
	29	コリをほぐすストレッチ体験講座	火	4	35	77	5	86	91	2	29	31	73.8	67.9	68.3	73.4	22.8

事業名称			曜日	回数	定員	応募	延べ人数			実人数			平均年齢			出席率（%）	1回あたりの人数
							男	女	計	男	女	計	男	女	計		
④食で健康	30	コレステロールを下げる食事講座①	火	1	20	33	2	16	18	2	16	18	78.0	68.8	69.8	100.0	18.0
	31	体脂肪を減らす食事講座①	金	2	20	76	3	31	34	2	16	18	73	69.5	69.8	94.4	17.0
	32	カルシウムアップの食事講座①	金	1	20	12	1	11	12	1	11	12	73	73	73	—	12.0
	33	コレステロールを下げる食事講座②	水	2	20	26	0	29	29	0	15	15	0	69	69	96.7	14.5
	34	塩分控えめ食べ方講座	金	2	20	9	4	13	17	2	7	9	71.5	69.7	70.1	94.4	8.5
	35	体脂肪を減らす食事講座②	火	2	20	51	7	28	35	4	15	19	77.6	65.4	67.9	92.1	17.5
	36	糖質の賢いとり方講座②	金	2	20	20	4	26	30	3	15	18	65.3	67.8	67.4	83.3	15.0
	37	カルシウムアップの食事講座②	火	1	20	28	0	18	18	0	18	18	0	69.5	69.5	—	18.0
⑤心と体	38	ココロリラックスⅡ	火	4	17	45	4	49	53	1	14	15	73	64.8	65.4	88.3	13.3
	39	ココロリラックスⅢ	火	4	17	24	27	32	59	7	9	16	72.7	67	69.6	92.2	14.8
	40	ココロリラックスⅣ	火	4	20	11	10	22	32	3	8	11	67.1	60.3	62.4	72.7	8.0
	41	ココロリラックスⅤ	火	4	20	17	6	34	40	2	12	14	71.3	60.9	62.5	71.4	10.0
⑥壮年期の健康	42	はじめてのバレエストレッチ講座(土曜)	土	3	30	79	0	55	55	0	27	27	0	51.4	51.4	67.9	18.3
	43	大人の部活サーキット講座(土曜)	土	6	30	26	19	98	117	5	20	25	45.8	53.9	52.6	78.0	19.5
	44	リズムダンス＆エクササイズ講座(土曜)	土	6	35	38	16	132	148	3	30	33	54.5	51.5	51.8	74.7	24.7
	45	はじめてのピラティス講座(夜間)	水	3	30	82	1	75	76	1	27	28	55	50.2	50.2	90.5	25.3
	46	大人の部活サーキット座(夜間)	水	7	30	28	14	114	128	4	20	24	51.8	53.3	53.1	76.2	18.3
	47	大人の部活サーキット講座(夜間)	水	8	30	31	10	135	145	3	24	27	57	52.3	52.6	67.1	18.1
	48	カラダ引き締めファイティング講座(夜間)	水	8	30	32	22	147	169	3	27	30	54	52.9	53.1	70.4	21.1
障害	49	知的障害者のための肥満改善講座	土	3	10	17	9	16	25	3	6	9	32	43.1	39.1	92.6	8.3
	50	障害者のためのマシンで体力づくり講座	土	3	10	17	20	6	26	7	2	9	38.2	66.2	44.7	96.3	8.7
⑧特別教室	51	口腔ケア①(特別教室)	月	1	35	18	1	17	18	1	17	18	71	73.3	73.2	—	18.0
	52	口腔ケア②(特別教室)	月	1	35	8	2	6	8	2	6	8	70	70.3	70.3	—	8.0
	53	ストレッチ＆ソシアルソロダンス(特別教室)	水	1	30	30	3	26	29	3	26	29	80.3	71.5	72.4	—	29.0
	54	呼吸体操のメリットや効果・実技(特別教室)	水	1	30	30	5	25	30	5	25	30	77	76.1	76.3	—	30.0
	55	楊名時太極拳(特別教室)	水	1	35	35	7	26	33	7	26	33	70.3	69.7	69.8	—	33.0
⑨個別	56	個別相談（運動）	—	14	1	14	3	11	14	3	11	14	70.7	71.2	71.1	—	1
	57	個別相談（栄養）	—	14	1	14	2	12	14	2	12	14	63.5	70.4	69.4	—	1
	58	個別相談（休養）	—	13	1	13	1	12	13	1	12	13	73	67.3	67.8	—	1
５８講座の合計（年齢は平均年齢）				396	1452	2789	1210	5707	6917	207	1084	1291	56.6	64.8	66.0		17.5

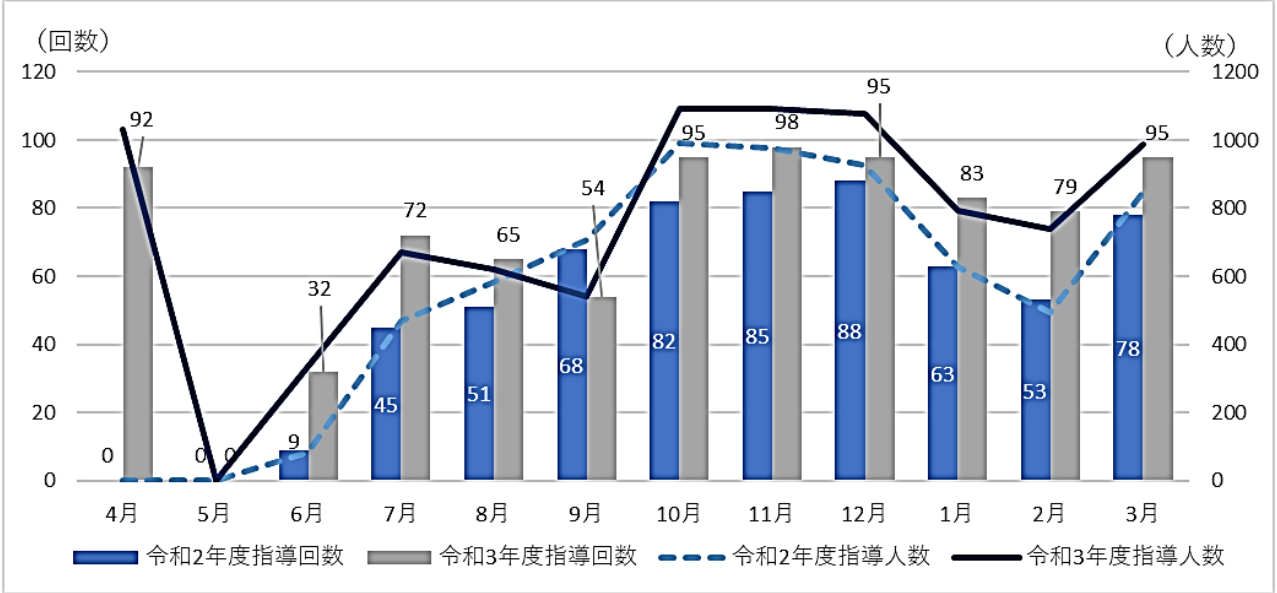
4　専門職員の派遣による地域での健康づくり支援（指定管理）

（１） 運動指導員の実地指導

実地指導では、運動指導員を年間 860 回派遣した。昨年度に引き続き、新型コロナウィルス感染防止のため、令和３年度１回目の緊急事態宣言が発令された 4 月末から派遣指導が中止となった。6 月半ばより派遣指導を再開し、徐々に教室の開催および活動を再開する団体が増えた。

各総合支所健康づくり課の健康づくり事業やまちづくりセンターなど、地域で催される健康教室などに 42 回、地域の健康づくり活動団体においては 193 団体へ 755 回派遣した。また、この 1 年間で解散団体は 6 団体、活動中止団体は 10 団体であった。

月別派遣指導回数・人数　年度比較



※令和２年度緊急事態宣言１回目　令和2年 4月 7日～ 5月25日（東京都）
２回目　令和2年 1月 8日～ 2月 7日（東京都）
※令和３年度緊急事態宣言１回目　令和3年 4月23日～ 5月31日（東京都）

事業分類別実地指導の回数および指導人数

事業分類	派遣回数		指導人数	
	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 2 年度	令和 3 年度
健康づくり事業	16 回	42 回	279 人	719 人
健康づくり活動団体	563 回	755 回	6, 028 人	7, 728 人
その他	43 回	63 回	398 人	531 人
合計	**622 回**	**860 回**	**6, 705 人**	**8, 978 人**

利用状況 地域	若年		中高年		高齢		合計	
	指導（回）	人数（人）	指導（回）	人数（人）	指導（回）	人数（人）	指導（回）	人数（人）
世田谷	13	86	0	0	129	1,402	142	1,488
北沢	7	55	0	0	188	2,064	195	2,119
玉川	18	122	9	98	243	2,803	270	3,023
砧	9	54	0	0	160	1,525	169	1,579
烏山	13	142	0	0	71	627	84	769
合計	**60**	**459**	**9**	**98**	**791**	**8,421**	**860**	**8,978**

※若年：おおむね 40 歳未満・中高年：40～65 歳・高齢：おおむね 65 歳以上

（２） 健康づくり支援

健康づくり支援では、地域健康プラン会議や関連機関との健康教室の打ち合わせ等へ専門職員を派遣した。令和 3 年度は引き続き新型コロナウィルスの流行に伴い、健康づくり課やまちづくりセンター主催の健康づくり教室等の会議・支援した（47 回）。

長期継続活動グループの表彰（ポスター掲示）

総合プラザ 1 階の「ふれあいカフェうめとぴあ」にて、20 年に渡る長期グループ 6 団体をポスター掲示した。（①すばる②コスモスの会③北沢 21 体操会④ウォーキング 2000⑤サークルカンナ⑥軽体操ひまわり）

令和元年度以前は、「保健センターまつり」に於いて、長期継続表彰式典を行っていたが、新型コロナウィルス感染症の感染予防の観点から、令和 2 年度・3 年度の式典は行わず、ポスター掲示とした。

【掲示の様子】

（３）地域健康出前講座

１） 出張健康チェック【依頼なし 0 人】

各総合支所健康づくり課の要請による体成分分析測定器での測定と結果説明

２） 出張健康応援団（区民団体対象）【参加総数 71 人】

区民団体からの要請により、夜間・休日を含め専門職員を派遣した。内容は以下のＡ～Ｆより希望選択して実施

（A）体成分分析測定　（B）食事バランスチェック　（C）食生活・栄養の話
（D）運動の話や実技　（E）こころの健康についての話

	実施日	曜日	時間	内容	団体名	派遣人数	参加人数
1	11/5	金	午前	D	ひこばえクラブ	1	12
2	12/3	金	午前	D	代沢４丁目クラブ	1	38
3	3/14	月	午前	D	サロンつる	1	21

（４）職場のげんき力アッププログラム

区内の中小企業を対象に、壮年期の生活習慣病対策を継続的に実践するため、事業主のバックアップのもと、従業員個々の生活習慣改善に必要な行動変容を促し、社内が一体となって取り組む職場単位の支援プログラムを提供した。

支援プログラムは、職場の健康目標にむけて、３～６ヶ月程度取り組みを実践する「げんき力アップ応援コースと、「１日体験コース（動機づけ)」の２通りを設定している。令和３年度は「1 日体験コース」を１社、「げんき力アップ応援コース」の初回プログラムを１社が実施した。なお、コロナ禍の中、実施の見送りとなった企業が２社あった。

企業数	事業所名	実施日	曜日	時間	内容	参加人数
1	保険業	10月13日	水	9：30～12：00 13：00～15：30	≪1日体験コース≫ 体成分分析測定と結果説明 食事の講座 「バランス良く食べて健康維持」	108人
2	建設業	2月19日	土	10：00～12：00 14：00～16：00	≪げんき力アップ応援コース≫　初回 体成分分析測定 目標設定　①職場目標 ②個人目標 運動実技「からだを磨くストレッチ」 マシントレーニング体験	34人

2 社ともに体成分分析測定は好評であり、具体的に数値がわかるため、自分の体の現状や改善点、目標設定にもつながる。

Ｋ社は初めての参加で、事業主が健康づくりの取り組みに極めて熱心であり、『健康宣言』のポスターも社内に貼られていた。体成分分析測定では、結果が数値化しているので自分の体の状態がわかり、コロナ禍での運動不足の実感や運動に対するきっかけづくりとなった。また受けたいとの希望もあった。

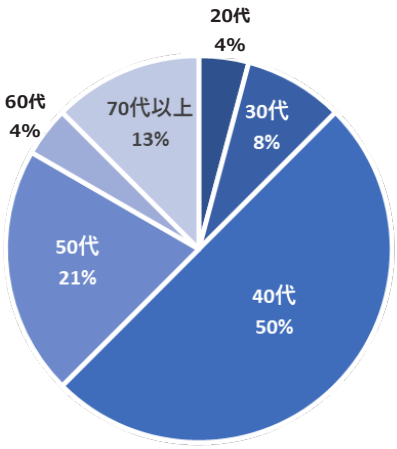
栄養講座は 45 分の講話を行なった。興味関心を持って聞いている様子で、家族の食事についての質問もあり、家族の健康づくりを考える世代であることを改めて感じられた。

Ｓ社は当プログラム参加が５年目となる。社員が健康でいてほしいと心に響くような社長の言葉があり、健康に関心の高い企業です。今回初めてマシントレーニングを体験した。コロナ禍でコミュニケーションが減っているせいか集団でのマシンや運動実技は非常に盛り上がった。会社の目標は、社員全員で考え意見が多かったものに決定し、個人でも体を動かす目標が多く挙げられていた。また、個別にはメールでのやり取りも行なうことにした。　中間支援では、個人または事業所全体でのリモート指導を検討している。

（５）地域健康講座

この講座は、「より身近な地域で、健康づくりの機会を提供する」「自らの健康について目を向ける機会が少ない働き盛り・子育て世代に今からロコモ・フレイル予防を促していく」「壮年期世代を中心とした地域コミュニティの発足」を目的に、運動の実技と運動・栄養・休養・がん検診についての講話、そして体成分分析測定を実施した。

令和３年度は池尻（世田谷地域）・上祖師谷（烏山地域）・桜新町（玉川地域）で開催した（各４回講座）。



参加者年齢構成（全講座）

日程	メインメニュー
10/11	毎日をアクティブに過ごすために!! 筋力トレーニングで体力アップ
	体成分分析測定 ～ 筋肉量・体脂肪量・内臓脂肪レベルを確認しよう！～
10/19	がん検診についてのお話
	健康診断結果の見方と食生活の関係
	やせる習慣と脂肪を減らすために必要な運動について
10/26	ストレス対策 ～自分の性格や考え方を知る～
	イライラを軽減するエクササイズ
11/1	１０年後・２０年後の自分のために・・ 今できること・・今からしたいこと

講座プログラム（上祖師谷）

緊急事態宣言により６月に池尻の講座では４回中２回の実施となった。

参加者はターゲット層である働き盛り・子育て世代（20～50 代）が全体の約８割を占めた。また、児童館の協力を得て、児童館を利用している母親に周知を行ったところ、令和２年度に比べ 20～30 代の参加者が増え、子ども連れでの参加者が全講座で３人となった。

講座では自主活動グループの発足を視野に、簡単な自己紹介をしてもらうなど参加者同士が打ち解けられるよう工夫した。そして桜新町の講座において、参加者からグループの発足を希望する声が挙がり、社会福祉協議会の協力を得ながら、話し合いの準備を進めた。しかし、緊急事態宣言の再発令や参加者との日程調整が困難になるなど、グループ化に向けた話し合いの場を設けることができず、自主活動グループの発足に繋げることができなかった。

令和４年度は新代田・烏山・喜多見の３つのエリアで開催を予定している。関連事業所や自治体など地域との連携を深めながら、自主活動グループの発足が円滑に進むよう力を入れていく。

《実施風景》

５　リーダーの養成・活動支援（指定管理）

令和 3 年度は、第 10 期「せたがや元気体操リーダー養成講座」を開催し 11 人を認定した。また、登録リーダーは 64 人の指導技術の維持向上のため、リーダー対象に研修会、交流会、指導実習を行った。また、運動指導員に代わって指導する「リーダー実地指導」は、元気体操リーダーを 195 回派遣した。その他、地域の自主グループを対象とした研修会を 4 回開催した。

（１）初級養成講座（せたがや元気体操リーダー　１１人認定）

回数	月日	曜日	内容	講師名	参加者数
1	10月5日	火	これからの健康づくりリーダーの役割 運動プログラム体験	健康長寿医療センター研究所　村山　洋史　氏 せたがや元気体操リーダー８期生　鈴木　弘美　氏	11
2	10月8日	金	高齢者の体力の現状を理解する ストレッチ体操の必要性と指導法Ⅰ	介護予防フレイル予防推進センター　倉地　洋輔　氏 保健センター運動指導員	11
3	10月12日	火	ストレッチ体操の必要性と指導法Ⅱ 有酸素運動の必要性と指導法	保健センター運動指導員	11
4	10月15日	金	貯筋体操クラブの活動と成果 筋力づくり運動の必要性と指導法	昭和大学医学部衛生学公衆衛生学　白澤　貴子　氏 保健センター運動指導員	11
5	10月18日	月	地域体操グループのための運動指導法 指導計画案の作成と実技実習Ⅰ	保健センター運動指導員	11
6	10月25日	月	世田谷区の健康づくり施策 指導計画案作成と実技実習Ⅱ	世田谷保健所健康企画課　松木　浩一　氏 保健センター運動指導員	11

（２）研修会（講座）リーダー対象

回数	月日	曜日	内容	講師名	参加者数
1	6月29日	火	高齢者が蘇る『リズム運動』の力 ～体力があれば心がついて行く	一般社団法人バリアフリーフィットネス協会 代表　三矢　八千代	47
2	8月27日	金	呼吸体操の機能・効果・実技指導	特定非営利活動法人安らぎ呼吸プロジェクト 理事長　本間　生夫	41
3	11月30日	火	高齢者体力維持エクササイズのための ５つのポイント	株式会社プロジェクト オン 岩間　徹　氏	38
4	1月31日	月	見えにくい・聞こえにくい方の 理解を深める	専門相談課 言語聴覚士　安保直子 ・ 専門指導員　木村仁美	37
5	2月21日	月	「コロナ禍の地域活動 ～地域に必要とされるリーダーとは～」	慶應義塾大学看護医療学部 教授　田口　敦子　氏	30
6	3月25日	金	「コスモス体操」「椅子でのリズム体操」 「床座でのリズム体操」	保健センター運動指導員	44

（３）交流会（研修会と同日実施）（リーダーの委員が中心となって企画）＊運営は全て NPO けやき２１

回数	月日	曜日	内容	参加者数
1	6月29日	火	研修会を受けて活かせると思うこと、コロナ禍においての活動について	45
2	8月27日	金	前回の講義についてフォローアップ	41
3	11月30日	火	研修会を受けて活かせると思うこと。指導に行った際に困ったことやそれに対しての対応の共有	38
4	1月31日	月	研修会を受けて活かせると思うことを他の期のリーダーと共有	34
5	2月21日	月	研修会を受けてリーダー活動に活かせると思うこと	30
6	3月25日	金	10期生認定証授与式。グループで歓談。（期の違うリーダー同士で交流）	44

（４）研修会（講座）地域自主グループ対象（自主的に運動活動を行っている会）

回数	月日	曜日	内容	講師名	参加者数
1	7月8日	木	「リズム体操」	保健センター運動指導員	16
2	7月13日	火			25
3	9月3日	金	「呼吸体操・筋トレ」	保健センター運動指導員	16
4	9月27日	月			20

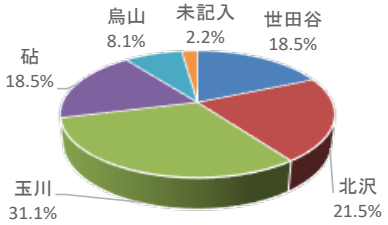
6　令和３年度「地域の健康づくり支援 実地指導　自主グループへの利用者アンケート」

回収率71.8%（回収135/配布188）

Q1　活動地域

⇒　玉川地域が3割と一番多かった。

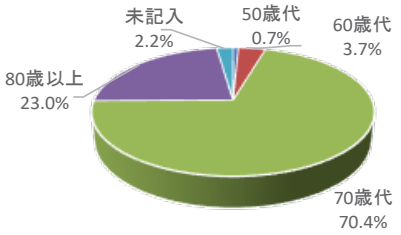
世田谷	25 団体	18.5%
北沢	29 団体	21.5%
玉川	42 団体	31.1%
砧	25 団体	18.5%
烏山	11 団体	8.1%
未記入	3 団体	2.2%



Q2　年代

⇒　70代が一番多く、80歳以上を合わせると9割以上を占めた。

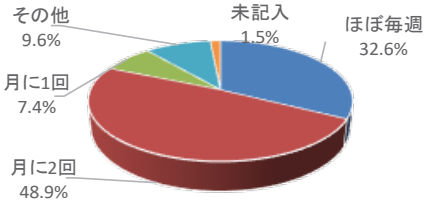
50歳代	1 団体	0.7%
60歳代	5 団体	3.7%
70歳代	95 団体	70.4%
80歳以上	31 団体	23.0%
未記入	3 団体	2.2%



Q3　活動回数

⇒　8割の団体が、月に2回または毎週活動している。

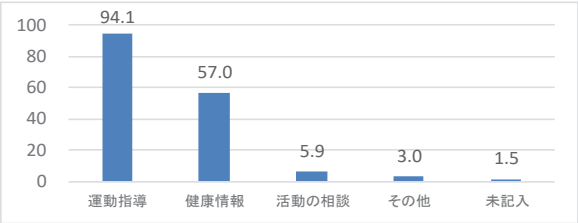
ほぼ毎週	44 団体	32.6%
月に2回	66 団体	48.9%
月に1回	10 団体	7.4%
不定期	0 団体	0.0%
その他	13 団体	9.6%
未記入	2 団体	1.5%



Q4　運動指導員に求めること（複数回答）

⇒　運動指導の他、健康情報を求める団体が半数以上あった。

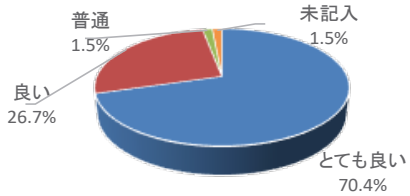
運動指導	127 団体	94.1%
健康情報	77 団体	57.0%
活動の相談	8 団体	5.9%
その他	4 団体	3.0%
未記入	2 団体	1.5%



Q5　運動指導員の対応

⇒　9割以上が「とても良い」「良い」であった。

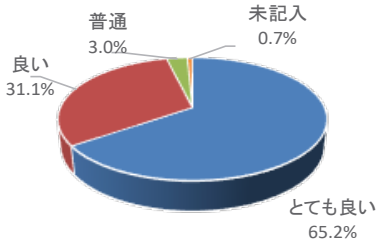
とても良い	95 団体	70.4%
良い	36 団体	26.7%
普通	2 団体	1.5%
やや悪い	0 団体	0.0%
悪い	0 団体	0.0%
未記入	2 団体	1.5%



Q6　運動指導員の指導内容

⇒　9割以上が「とても良い」「良い」であった。

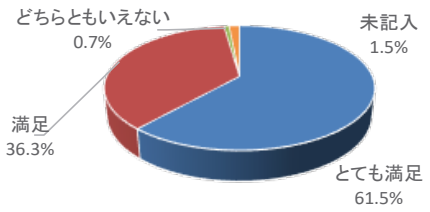
とても良い	88 団体	65.2%
良い	42 団体	31.1%
普通	4 団体	3.0%
やや悪い	0 団体	0.0%
悪い	0 団体	0.0%
未記入	1 団体	0.7%



Q7　運動指導員の総合的な満足度

⇒　9割以上が「とても満足」「満足」であった。

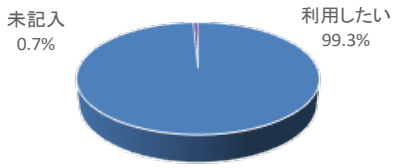
とても満足	83 団体	61.5%
満足	49 団体	36.3%
どちらともいえない	1 団体	0.7%
やや不満	0 団体	0.0%
不満	0 団体	0.0%
未記入	2 団体	1.5%



Q8　今後の保健センターの派遣を利用したいか

⇒　未記入の1団体を除き、「利用したい」と回答した。

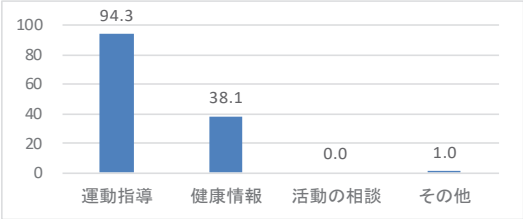
利用したい	133 団体	98.5%
どちらともいえない	0 団体	0.0%
利用したくない	0 団体	0.0%
未記入	1 団体	0.7%



Q10　元気体操リーダーに求めること（複数回答）　N=105(団体数135)

⇒　1/4の団体が未記入であった。

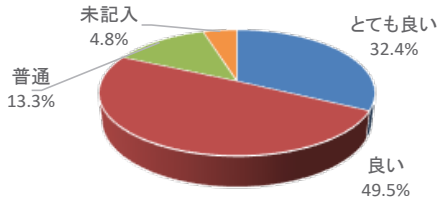
運動指導	99 団体	94.3%
健康情報	40 団体	38.1%
活動の相談	0 団体	0.0%
その他	1 団体	1.0%
未記入	33 団体	24.4%



Q11　元気体操リーダーの対応

⇒　8割以上が「とても良い」「良い」であった。

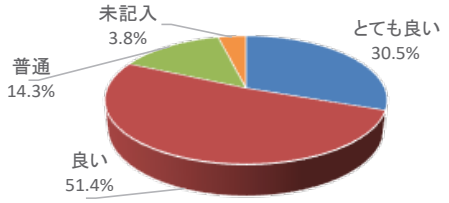
とても良い	34 団体	32.4%
良い	52 団体	49.5%
普通	14 団体	13.3%
やや悪い	0 団体	0.0%
悪い	0 団体	0%
未記入	5 団体	4.8%



Q12　げんき体操リーダーの指導内容

⇒　8割以上が「とても良い」「良い」であった。

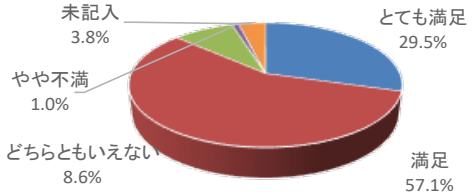
とても良い	32 団体	30.5%
良い	54 団体	51.4%
普通	15 団体	14.3%
やや悪い	0 団体	0.0%
悪い	0 団体	0.0%
未記入	4 団体	3.8%



Q13　げんき体操リーダーの総合的満足度

⇒　8割以上が「とても満足」「満足」であった。

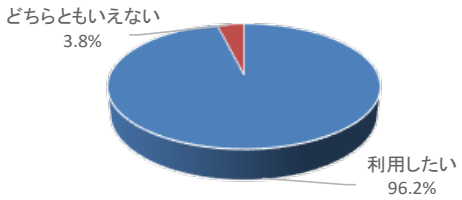
とても満足	31 団体	29.5%
満足	60 団体	57.1%
どちらともいえない	9 団体	8.6%
やや不満	1 団体	1.0%
不満	0 団体	0.0%
未記入	4 団体	3.8%



Q14　げんき体操リーダーを利用したいか

⇒　9割以上が「利用したい」と回答した。

利用したい	101 団体	96.2%
どちらともいえない	4 団体	3.8%
利用したくない	0 団体	0.0%
未記入	0 団体	0.0%



７　生活習慣病の重症化予防を推進する取り組み

健康せたがやプラン（第二次）において主要課題の一つである生活習慣病の重症化予防に関する施策を補完するために下記の事業を開催した。

世田谷区の調査から健診を受診し、高血糖・高血圧等のリスクがあっても肥満でない方は特定保健指導の対象外となり放置され、重症化が進んでしまうことが懸念されている。そこで本事業は肥満、非肥満に関わらずリスクのある方を対象とし、該当者自身が早期に生活習慣病改善につなげられるよう、世田谷区国保・年金課と協力した生活習慣病重症化予防の取り組みを行った。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大により、派遣型集団指導「生活習慣改善実践まちかどゼミ」は中止し、電話による個別指導「お家でトライ」と対面による**個別指導「生活改善パーソナルサポート」**を展開した。

（１）電話個別指導「生活習慣改善実践お家でトライ」

対 象 者：国民健康保険に加入している方で世田谷区国保・年金課より勧奨があった方
勧奨は、a)特定保健指導の対象外、またメタボリックシンドロームに該当しない40～64 歳で、b)空腹時血糖値 110～125mg／dl または HbA1c 6.0～6.4％の方

内　　容：生活習慣改善（主に血糖値）を目的とした電話による個別指導。初回から 3 か月後に評価を行う。

実施人数：6 人

（２）個別指導「生活改善パーソナルサポート」

対 象 者：「お家でトライ」申込者で希望する方

実施人数：2 人

８　障害者の健康支援プログラム（指定管理）

障害者は運動する機会や場所が少なく、糖尿病や肥満などといった健康課題が多くみられる。そこで、マシンを使った健康講座を令和２年度より土曜日に開催し、保健センターへ足を運ぶ障害者が増えてきた。また、移動手段がない障害者も多く、地域で障害者が集まり体を動かす活動拠点（自主団体）も４地域できた。障害者の健康づくりプログラムはまだ構築段階ではあるが年々拡充している。

（１）健康づくり講座【施設内】

令和３年度は知的障害者だけでなく、障害の種別を問わず健康講座を開催し、体を動かす楽しさを体感し運動する機会を提供した。マシントレーニングは動きが分かり易く運動量が確保でき、障害者にとっては有効な運動である。従事職員は運動指導員、理学療法士、管理栄養士、看護師。

1)知的障害者のための肥満改善講座　対象：愛の手帳を持っている 18 歳以上の区民(定員 10 人)
令和３年６月 26 日、７月 10 日、７月 24 日（全３回）土曜日　午前９時 30 分～11 時 00 分
参加者９人（男性３人　女性６人)、年齢 23～56 歳（平均年齢 40.2 歳）
愛の手帳２度―1 人、３度―4 人、４度―4 人

2)障害者のためのマシンで体力づくり講座　　対象：障害の種別は問わず（定員 10 人）
令和３年 10 月９日、10 月 23 日、11 月 13 日（全３回）土曜日　午前９時 30 分～11 時 00 分
参加者９人（男性７人　女性２人)、年齢 22～73 歳（平均年齢 45 歳）
□愛の手帳 ２度―2 人、４度―2 人
□身体障害者手帳 １級―1 人、２級―1 人、３級―1 人、４級―1 人
□精神障害者保健福祉手帳 ３級―1 人

プログラムの工夫点
○マシントレーニングでは、知的障害者には大きな字で見やすい記録表を配布し、実施したら○をつけるなど分かり易い声掛けを行った。身体障害者には、操作方法や使用する筋肉など具体的な説明を行い、平日のマシントレーニングコースへ繋がるよう呼び掛けた。
○栄養指導については、知的障害者の肥満改善講座では食事記録への個別アドバイス（保護者向けも含む）のほか、クイズなどを取り入れ短時間で講話を行った。その際フードモデルや食品のパッケージなどを用い、視覚で理解しやすいようにした。またマシン講座では知的障害者と身体障害者のグループに分けて対象に合った方法で栄養指導を行った。
○音楽での体操は馴染みのある音楽（サザエさん）に合わせて全身運動を実施した。ポンポンを使用し、体を大きく動かすよう促した。参加者全員ほぼ毎回出席し、家族の協力もあり笑顔が溢れ一体感があった。

アンケート結果では、体を動かす機会が多くなった、バランスの良い食事を心掛けるようになった、講座を通して家族でコミュニケーションが取れた、今後マシンや健診なども利用したいなどの声があった。講座終了後２人の方が保健センターのマシンコースに継続参加しているが、就労している参加者は平日マシンに参加出来ないため世田谷区内の運動施設の情報提供を行った。
今後講座を開催する際は、講座を通して健康づくりのきっかけや意識付けを行うとともに、区内の公的な施設などを紹介出来るよう社会資源の情報収集を行い、保健センターも情報源の一つ

となるよう障害者の健康づくりプログラムを更に構築していくことが必要である。

（２）「リハビリ・スポーツ講座」【地域型】

障害者及び体力に自信のない高齢者を対象に、リハビリテーション・スポーツを通じて、体力の維持増進とQOLの向上及び社会参加のきっかけとなる地域講座「リハビリ・スポーツ体験講座」を池尻地域で開催した。従事職員は運動指導員、栄養士、看護師のほか、一般社団法人輝水会へ専門指導員の派遣委託をしている。

この事業も3年目となり、区内の4か所に自主活動グループ「世田谷YYリハスポクラブ」が発足し毎週活動を続けている。今年度からこの活動団体（拠点）へグループが活性化するための支援も実施した。

【日　　時】　令和3年10月18日～11月29日　毎週月曜日　13：30～15：30　（全7回）
12月～3月まで月に2回、自主活動に向けてのフォロー講座を実施。

【会　　場】　池尻小学校第二体育館

【参加状況】　参加者4人(男性1人・女性3人、平均年齢73・8歳）、障害者手帳を保持者2人。男性1人は脳梗塞による障害のある人で、女性1人は脳性麻痺その他は変形性膝関節症など整形外科的疾患のあるの高齢者の参加者であった。

【プログラム】

・ボッチャ、卓球、体操、フライングディスク
・体力測定、
・SF-36によるQOL調査

今回初めてフライングディスクを取り入れた。体操も指導者が行うだけでなく、参加者も輪番に体操の先生をするなど、自主活動に活かせる工夫をした。

【まとめ】

講座では参加者同士がスポーツを行う場面で見られる笑顔やコミュニケーションを自然に測る場面も多く、高齢だから障害だからという隔たりのない楽しい雰囲気の活動の場となった。ボッチャや卓球でからだを自然と動かすことでいつの間にか身体機能が向上し、健康感が高まることもこの講座の効果であることが体力測定とQOLの調査の結果からも明確である。

講座終了後は自主的活動を継続し、月2回の活動から毎週活動することとし、新たな拠点となり活動を継続している。

（３）リハビリ・スポーツ体験講座フォロー【地域型】

リハビリ・スポーツ講座の終了者が中心となって活動をしている「世田谷YYリハスポクラブ」は、希望ヶ丘、松原、九品仏の3地域において毎週活動を行っている。今年度は、健康情報紙げんき人に希望丘地域で活動しているグループの紹介を掲載し、会の活性化をめざす支援をおこなった。また近隣の体操グループや社会福祉協議会、あんしんすこやかセンターなどにも周知、宣伝をし、サポーターの募集も同時におこなった。実地支援：9/6、9/13、10/4、10/11（4回）

実地支援では、会則、会費、代表者など役割を決め、更にサポーターの役割も明確にするなど運営が安定し会の活性化ができた。

障害者が身体を動かす場、仲間との交流の場が3地域にあることを区民に広めていきたい。

Ⅳ　健康教育事業

１　地域の健康づくりの基盤を広げる各種の取り組み

（１）健康相談・講演会・イベント（自主）

各種健康イベントや講演会により健康情報を発信するため、医師会、歯科医師会、薬剤師会等との共催により、例年イベントや講演会を実施してきたが令和３年度は新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡大防止のため、下記の①～③については中止とした。

保健センター主催の講演会・講座については、十分な感染対策を行い実施した。

①区民のための健康教室

世田谷区医師会、世田谷区との共催事業

②８０２０歯っぴい＆健康フェスタ世田谷

世田谷区歯科医師会、玉川歯科医師会、世田谷区との共催事業

③くすりと健康のつどい

世田谷薬剤師会、玉川砧薬剤師会、世田谷区との共催事業

④保健センター主催の講演会・講習会

開催日	内　　容	講　師　名	参加者数
10月７日（木）	講習会「坐禅体験講座」（夜間）	駒澤大学 仏教学部准教授　大澤 邦由	24 人
10月９日（土）	講習会「坐禅体験講座」（土曜）	駒澤大学 仏教学部教授　岩永 正晴	24 人
11月29日（月）	講演会「森林浴のすすめ」	ＮＰＯ法人森林セラピィーソサエティ精神保健福祉士　春日 美歩子	45 人

（２）うめとぴあまつり（保健センターまつりの継承事業-自主）

イベント・体験型の情報発信として、うめとぴあ内の各施設と連携し開催する予定であったが、コロナ禍で中止とした。

（３）地域連携、健康づくりグループとの交流

大学をはじめとする区内の学校等の実習受入れや、健康づくり活動を 20 年以上継続しているグループへの表彰を行った。

年度／事業項目	令和３年度	
	内　　容	期　日
大学等との連携	世田谷区医師会立看護高等専修学校実習受入	令和３年５月～11 月（延べ 60 日）
	東京聖栄大学実習受入	令和３年６月～7 月（延べ３日）
	東京農業大学実習受入	令和３年８月 2 日 令和３年８月 3 日
	武蔵野大学　ヘルスプロモーション実習受入	令和３年９月～10 月（延べ６日）
地域健康づくりグループとの交流	長期継続グループの表彰（６団体）	令和３年６月

２　健康教育指導　「運動コース」および「マシントレーニングコース」（自主）

「運動コース」および「マシンコース」では、主に教室終了者を対象に運動継続のための支援を行った。体力や興味に合わせて、集団指導の運動コースを年間 390 回と個別的トレーニングのマシンコースを年間 1207 回それぞれ実施した。

運動コースでは、定員を制限して週８コースを開催した。前年度実施していた４コースから倍増し様々な内容のコースを開催した。マシンコースも同様に定員を削減し１日５コース・週２５コースを開催した。

運動コース	定員	開催回数	延べ人数			実人数				１回あたりの人数
			男	女	合計	男	女	合計	平均年齢	
スマイルエアロ火曜	30	42	44	1,189	1,233	5	88	93	69.7	25.2
のんびり体操火曜	30	42	322	800	1,122	28	119	147	76.5	22.9
エンジョイダンス水曜	30	41	4	1,057	1,061	3	122	125	70.8	22.1
わくわく体操水曜	30	41	132	983	1,115	23	113	136	70.8	23.2
さわやかヨーガ木曜	30	42	131	1,074	1,205	13	90	103	70.2	24.6
わくわく体操木曜	30	42	233	962	1,195	22	124	146	72.6	24.4
のんびり体操金曜	30	41	164	934	1,098	22	113	135	75.7	22.4
ゆったり太極拳金曜	30	41	289	883	1,172	24	101	125	72.3	23.9
合計		**332**	**1,319**	**7,882**	**9,201**	**140**	**870**	**1,010**	**72.3**	**23.6**

マシンコース	定員	開催回数	延べ人数			実人数				１回あたりの人数
			男	女	合計	男	女	合計	平均年齢	
Ａコース　午前 9：00～	10	206	446	1,364	1,810	52	117	169	70.8	7.0
Ｂコース　午前 10：20～	10	206	712	1,266	1,978	71	187	258	71.1	8.0
Ｃコース　午後 1：10～	10	206	582	1,272	1,854	69	186	255	72.8	8.0
Ｄコース　午後 2：30～	10	205	630	1,200	1,830	72	186	258	73.3	8.0
Ｅコース　午後 3：50～	10	205	784	925	1,709	66	122	188	72.8	7.0
合計		**1,028**	**3,154**	**6,027**	**9,181**	**330**	**798**	**1,128**	**72.2**	**7.6**

◎Ａ～Ｅコースは平日の月～金曜日に毎日開催

〈マシントレーニングコースで使用する機器より、脚のトレーニング（４種）・その他５機種を設置〉

３　出張指導（委託）

世田谷区の委託事業をはじめ、民間企業、地域団体からの依頼にもとづき、運動指導員、管理栄養士、保健師、看護師の専門職員を派遣した。感染症拡大予防をしながら、人数制限、時間短縮などの工夫をし、安全管理体制を整え事業を実施した。

（１）　世田谷区高齢福祉部介護予防・地域支援課からの委託

	委託先	内　容	派遣人数	参加人数
1	世田谷区高齢福祉部介護予防・地域支援課	１）介護予防筋力アップ教室（3 教室）	113	192
		２）はつらつ介護予防講座（松沢・上北沢）	76	417
		３）地域づくりによる介護予防支援事業	9	75

１）介護予防筋力アップ教室（3 教室）【参加人数 192 人】

この講座は、事業対象者・要支援認定者を対象とし、介護予防に必要な運動、食事、認知症予防、社会参加について学び、日常生活に取り入れ習慣化することが目的である。事業テキストに沿って運動指導員、管理栄養士、保健師、理学療法士、言語聴覚士が講話と実技をおこない、参加者同士のコミュニケーションを図りながら教室終了後も継続して取り組めるよう支援した。参加者は、行動変容ステージと体力測定の結果が維持から改善へ移行し、「長い時間歩けるようになり、遠出ができるようになった」「人とお話ができて笑えるようになった」など心身ともに変化がみられた。

２）普及啓発講座（はつらつ介護予防講座）【参加人数 417 人】

当センターは区内 28 地区のうち、松沢地区と上北沢地区の 2 箇所を担当した。65 歳以上で介護予防に関心がある区民が参加でき、「世田谷いきいき体操」を中心とした体操と尿失禁予防、食生活、お口の健康、認知症予防、地域での社会参加についてなど、高齢者の体力に配慮した内容を実施する。スタッフは運動指導員、理学療法士、管理栄養士であんしんすこやかセンターの職員と協力して実施した。

３）地域づくりによる介護予防支援事業【参加人数 75 人】

地域住民が運営する身近な「通いの場」を充実させるため、グループの立ち上げの支援と、「世田谷いきいき体操」の実技指導や体力測定などの支援を行い、地域づくりを通じた介護予防の取り組みを促すことを目的としている。新型コロナウイルス感染症の影響で依頼は減少し、今年度は 5 グループへ説明会を実施し、そのうち 1 グループが活動を開始した。

（２）世田谷保健所健康企画課からの委託

「高齢者の運動習慣定着支援事業」

世田谷区では、令和２年度より「高齢者の地域参加促進施策」の取り組みが施行され、身近な地域での「健康づくり」プロジェクトの一つである「高齢者の団体活動時の健康づくりの定着支援」について、今年度より委託され事業を開始した。

新型コロナウイルス感染症の影響で、引きこもり防止やフレイル予防を図ることが目的でもあり、高齢者クラブの活動時に、健康づくり指導や運動の習慣化の働きかけを行った。内容は、当センターで作成・監修した「スキマ de げんき体操」を運動指導員が指導し、運動の習慣化を働きかけた。支援の前後でアンケート調査を実施し事業の評価をし、体成分分析測定で運動のきっかけづくりをした。

支援団体　　高齢者クラブ　５団体　（松寿会、七福会、福寿会、不老会、みずき会）
派遣回数　　50 回（説明会を含む）
参加人数　　５団体合計　述べ人数　349 人

（３）その他の委託（参加人数　295 人）

	委託先	内　容	派遣人数	参加人数
1	世田谷区総務部職員厚生課	職員の訪問腰痛予防教室	12	117
2	(公財)世田谷区産業振興公社	オンラインセミナー	4	76
3	(株)世田谷サービス公社	梅丘げんき講座「はじめての太極拳講座」	1	24
4	奥沢地区社会福祉協議会	Inbody 測定会	1	78

４　特定保健指導（委託）

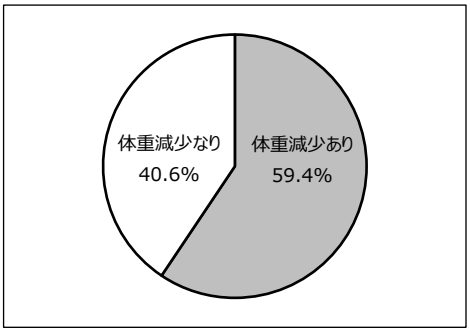
世田谷区国民健康保険特定健康診査結果にもとづく特定保健指導(動機付け支援・積極的支援)を世田谷区より受託し、世田谷区より利用券が送付された方を対象に実施した。令和 3 年度の実施状況は、初回面談受診者 88 人であった。(動機付け支援 72 人、積極的支援 16 人)

※実施人数は令和 2 年度、令和 3 年度の特定健診に基づく人数

動機付け支援			積極的支援		
初回面談	途中脱落	最終評価	初回面談	途中脱落	最終評価
72	0	60	16	4	17

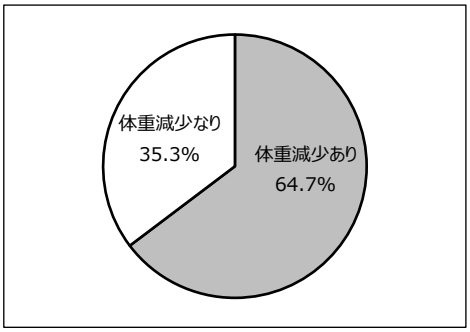
保健指導の結果、体重減少がみられたのは、動機付け支援で 59.4%(男性 57.1%、女性 62.1%)《グラフ１》、積極的支援では 64.7%（男性 64.3%、女性 66.7%）《グラフ２》であった。

動機付け支援での体重変化（64 人）



《グラフ１》

積極的支援での体重変化（17 人）



《グラフ 2》

※グラフ 1、2 は令和 2 年度特定健診を受診され、保健指導を受けられた方の内訳

Ⅴ　保険診療等による検査事業（自主）

医療機関からの依頼による、各種検査及びがん検診からの要精検者について精密検査を行った。各科領域における検査件数・受診者数は、下表のとおりである。

◎保険診療による医療機関受託検査事業実績

※［　　］の数字は内視鏡検診の精密検査数[別計上]

区　分			実施件数		
			検査総数	がん検診からの精密検査	がん検診精密検査以外の検査
消化器	胃	内視鏡検査	665	38	627
		病理組織検査	200［4］	14［4］	186
	大腸	内視鏡検査	141	16	125
		病理組織検査	43	6	37
乳房	一般撮影		280	119	161
	スポット撮影		56	39	17
	超音波検査		387	208	179
	細胞診検査		7	3	4
子宮	コルポスコープ		112	52	60
	病理組織検査		112	52	60
	細胞診検査		113	53	60
一般精密	MRI		1,660	—	1,660
	CT		1,511	—	1,511
	腹部超音波検査		153	—	153
心臓	ホルダー心電図		16	—	16
	超音波検査		168	—	168
合計			5,624	600	5,024

1　胃（上部消化管）検査

内視鏡検査と病理組織検査があり、いずれも胃を中心にその前後の食道、十二指腸などを診断する。内視鏡は、医用画像デジタルファイリングシステムを導入、ハイビジョンの鮮明画像を用いて結果説明を行っている。受診者の負担軽減のために希望に応じて鎮静剤使用を行うなど、サービスの向上に努めている。

◎検診以外の精密検査集計

区分	受診者数	異常なし	有所見者数	胃がん	食道がん	胃潰瘍	十二指腸潰瘍	胃 炎	びらん	ポリープ
総数	613	3	610	9	2	10	5	495	322	281
男性	246	2	244	3	2	5	4	204	145	115
女性	367	1	366	6	0	5	1	291	177	166

2　大腸（下部消化管）検査

胃検査と同様に、内視鏡・病理組織を実施している。原則、全例に鎮静剤・鎮痛剤を使用し、回盲部までを短時間で検査するため受診者への負担も軽くすんでいる。発見された病変部は上部内視鏡と同じく生検により病理組織診断を下している。

※表中の数は検診外の精密検査の集計

区分	受診者数	異常なし	有所見者数	疾　病　内　訳(所見複数記載)					
				大腸がん	ポリープ	大腸潰瘍	大腸憩室	大腸炎	痔　核
総数	125	26	99	2	75	1	75	7	11
男性	70	11	59	1	44	1	46	7	8
女性	55	15	40	1	31	0	29	0	3

3　乳房精密検査

乳がん検診の精密検査や医療機関からの検査依頼を受け、問診・視触診、マンモグラフィ（エックス線検査）や乳房超音波検査などを行っている。必要に応じてスポット撮影や穿刺吸引細胞診検査を施行し総合的診断を行っている。

トモシンセシス（撮影した画像データを再構成し、乳房内部の断面像を作る機能）が可能なマンモグラフィ装置、エラストグラフィー（腫瘤の硬さを色で判別する機能）が可能な超音波診断装置を用いることで、検査精度を向上させている。

検診要精検者以外の受診者 164 人のうち、2 人が乳がん、3 人が乳がん（疑い）と診断された。その他の疾患として 19.5%の方に線維腺腫等の腫瘤性病変が指摘され、また全体の 45.1%が乳腺症（のう胞を含む）と診断されている。

※表中の数は検診外の精密検査の集計

区分	受診者数	異常なし	有所見者数	疾　病　内　訳（所見複数記載）							
				乳がん	乳がん疑　い	線維腺腫	乳腺腫瘤	乳　腺のう胞	乳腺症	石灰化	女性化乳房
総数	164	24	140	2	3	16	16	19	55	39	1

4　子宮精密検査

問診・内診・細胞診を行った後、コルポスコープ診（内視鏡）で認めた異常所見部位の組織検査を行っている。子宮がんの発見及び診断を目的とした検査であり、検診からの精密検査依頼が多く、経過観察の検査依頼も受けている。

※表中の数は検診外の精密検査の集計

区分	受診者数	異常なし	有所見者数	疾　病　内　訳（所見複数記載）						
				扁平上皮がん	上皮内が　ん	高　度異形成	中等度異形成	軽　度異形成	頸管ポリープ	頸管炎
総数	47	13	34	0	0	7	8	14	0	5

５　一般精密検査

（１）ＭＲＩ検査（ＭＲＩ：磁気共鳴撮影）

ＭＲＩ検査は、強力な磁場を利用して画像を作成し診断する。保健センターでは静磁場強度３．０テスラの装置を利用し任意の断面や様々なコントラスト（T1 強調、Ｔ2 強調、拡散強調、水・脂肪抑制など）を画像化している。また、造影剤を使わずに血管（ＭＲＡ）や胆・膵管（ＭＲＣＰ）を立体的に描出することが可能である。

通常の検査に加え、頭部においてはＶＳＲＡＤ（早期アルツハイマー型認知症診断支援システム）を用いた画像解析の情報を提供しているほか、腹部ではＥＯＢ（肝細胞特異性を有する造影剤プリモビストを使用）検査を行っており、通常のＣＴ・ＭＲＩ検査では診断が困難な肝臓病変に対して有効な手段となっている。また、受診者の利便性を考慮し、夜間の時間帯にＭＲＩ検査を月２回実施している。

◎ＭＲＩ検査実施状況

区　分	総　数	頭　部	躯　幹	四　肢
検　査　数	1,660	825	688	147
受 診 者 数	1,624（男 650、女 974）			
有所見者数	1,306	550	622	134
異 常 な し	318	260	48	10

◎主な検査部位の内訳

頭部(脳・副鼻腔)― 713件
脊椎(頸・胸・腰)― 553件
腹部・骨盤部 ―― 214件
四肢・関節 ――― 144件

造影剤使用 ――― 10件
腹部(ＭＲＣＰ) ―― 115件

◎ＭＲＩによる主な疾病内訳（所見複数記載）

（頭部）

疾病名	人数
脳内出血	6
硬膜下血腫	3
脳梗塞	42
脳動脈瘤	53
脳腫瘍	4
副鼻腔炎	94

（腹骨盤部）

疾病名	人数
膵管内乳頭粘液性腫瘍	28
膵腫瘍	1
肝腫瘍	3
肝血管腫	8
卵巣腫瘍	1
前立腺腫瘍	11
副腎腫瘍	3

（脊椎）

疾病名	人数
椎間板ヘルニア	239
脊柱管狭窄症	226
脊椎症	254
圧迫骨折	76
辷り症	114
肩腱板損傷	19
肩関節周囲炎	8

（四肢）

疾病名	人数
靭帯断裂･損傷	21
半月板断裂･損傷	57
ガングリオン	6
変形性関節症	19
骨折	14
骨挫傷	22
TFCC 損傷	1

（２）ＣＴ検査（ＣＴ：コンピュータ断層撮影）

128 列マルチスライスＣＴ装置によって詳細な画像データを収集し、横断面のほかに任意の断面画像の再構成や３Ｄ画像を作成することが可能である。また、短時間で広範囲の検査が可能であり、短い息止め時間によって受診者への負担も軽減されている。

なお、ＭＲＩ検査同様に月２回、夜間の時間帯の検査も行っている。

◎ＣＴ検査実施状況

区分	総数	頭部	躯幹	四肢
検査数	1,511	108	1,393	10
受診者数	1,443（男 595、女 848）			
有所見者数	1,209	64	1,145	
異常なし	234	39	195	

◎躯幹の内訳

肺野―――937 件
腹部―――345 件
骨盤部――― 91 件
股関節――― 12 件
脊椎――― 8 件

◎肺野が全体の62％を占めた。

◎ＣＴによる主な疾病内訳（所見複数記載）

（頭部）

疾病名	人数
硬膜下血腫	3
脳梗塞(陳旧性)	19
脳萎縮	15
副鼻腔炎	23
水頭症	2

（躯幹部）

疾病名	人数	疾病名	人数
肺腫瘍	153	肝機能障害	188
縦隔腫瘍	5	子宮筋腫	23
肝腫瘍	28	卵巣腫瘍	11
副腎腫瘍	27	非定型抗酸菌症	28
肺炎症性変化	424	動脈瘤	32

（３）超音波検査（腹部、甲状腺、頸動脈）

超音波を体内の臓器にあてその反射をコンピュータで画像化し、臓器の実質を断層画像として診断する検査で､血流走行等をリアルタイムに描出できるカラードプラ機能のほか、肝硬変の診断及び経過観察に有効なエラストグラフィー機能を搭載した超音波診断装置を使用している。検査対象として肝臓や胆のう、膵臓、腎臓のほかに甲状腺、頸動脈でも実績を上げている。

◎超音波検査実施状況

区　分	腹部	甲状腺	頸動脈
検　査　数	104	23	26
受 診 者 数	148		
有所見者数	117		
異 常 な し	31		

◎超音波検査による主な疾病内訳（所見複数記載）

（腹部）

疾病名	人数
肝　腫　瘍	1
肝　の　う　胞	11
脂　肪　肝	52
胆のうポリープ	4
胆　石	4
腎　の　う　胞	21
腎　結　石	7

（甲状腺）

疾病名	人数
甲状腺腫瘍	3
甲状腺腫瘤	2
甲状腺のう胞	7
腺腫様甲状腺腫	4

（頚動脈）

頚動脈硬化症	18

6　心臓検査

心臓検査では、ホルター心電図（24時間心電図）及び心臓超音波（エコー）検査を行っている。ホルター心電図では、入浴やシャワーも可能な記録装置を使用し、小型で受診者の利便性も配慮している。心臓超音波検査では、循環器向けの高精度プローブを搭載し、高分解能の画像を得ることができる。

受診者の有所見者数は、超音波検査92人であった。このうち弁異常が多く指摘されている。

◎心臓検査実施状況と主な疾病内訳

区　分	ホルター心電図	心　臓超音波
検　査　数	16	168
受 診 者 数	16	163
有所見者数	2	92
異 常 な し	14	71

◎主な疾病内訳（所見複数記載）
（心臓超音波）

疾病名	人数
大動脈弁異常	57
僧帽弁異常	37
肺動脈弁異常	1
三尖弁異常	19
高血圧性心疾患	15
心　筋　症	2
狭　心　症	1
心筋梗塞	1
中隔欠損	1

Ⅵ　料金規程等による事業（自主）

保健センター料金規程に基づき、各種検査、健康診断、測定を実施した。令和３年度は新型コロナウイルス感染予防対策のため、通常より人数を抑えた予約枠のもと検査を実施した。各項目における検査件数・受診人数は、次のとおりである。

１　健康診断（自主）

健診内容としてＡ・Ｂ・Ｃの３パターンを設定している。健診Ａは、胸部Ｘ線・尿検査と診察などの簡易健康診断。健診Ｂは、労働安全衛生法に基づいた健康診断で血液検査が含まれている。健診Ｃは、血液検査の項目が健診Ｂより多く含まれ、生活習慣病予防健診として企業の健康診断に勧めている。（健診Ｃは企業のみ対象）その他、各企業の要望に合わせたオプション項目も用意している。

令和３年度の全受診者数2,145人の内訳は、個人健診199人（9.3%）、企業健診1,946人（90.7%）で、健康診断書発行数は、「センター様式診断書」148通、「外部様式診断書」46通であった。

健康診断内訳　（人）

区分	総数	健診Ａ	健診Ｂ	健診Ｃ	特定事業所	その他
個人健診	199	54	145			0
企業健診	1,946	21	367	178	1,198	182
計	**2,145**	**75**	**512**	**178**	**1,198**	**182**

２　小中学生心臓精密検査（世田谷区医師会・玉川医師会委託）

地域医師会の依頼により区立小中学校の心臓一次検診で要検査となった児童・生徒に対し、心臓二次検診を実施している。令和３年度の受診者数は世田谷区医師会71人、玉川医師会34人であった。

（ア）世田谷区医師会依頼分

項 目 名	実績数（人）
受診者数	71
安静時心電図	71
胸部X線	65
トレッドミル負荷心機能検査	44

（イ）玉川医師会依頼分

項 目 名	実績数（人）
受診者数	34
安静時心電図	34
胸部X線	34
負荷心電図検査	27

３　小中学生結核検診精密検査（世田谷区教育委員会委託）

世田谷区教育委員会の依頼により世田谷区立小中学校児童生徒のうち、結核発生地域からの帰国子女等など、精密検査が必要とされる児童生徒および三宿中学校夜間学級の生徒に対して、胸部Ｘ線撮影による精密検査を実施した。

項目名	実績数（人）
小・中学生	214
三宿中学校夜間学級	37

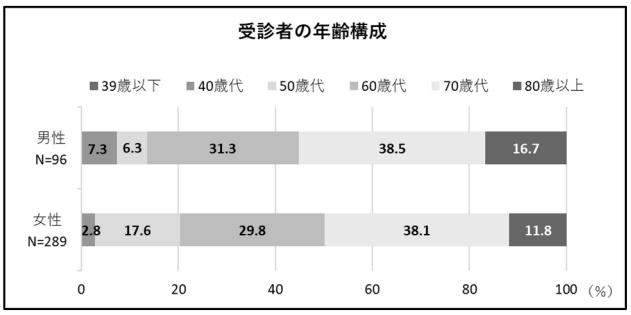
4　動脈硬化検査（自主）

動脈硬化検査（血圧脈波検査）は、動脈硬化性変化の把握と異常の早期発見により、受診者が自分の血管の状態を知り、生活習慣改善の必要性を理解し取り組んでもらうことを目的に実施している。

結果については、医師による説明と動脈硬化予防（食事や運動などの生活習慣改善や危険因子の管理等）のアドバイスを行っている。

（1）受診状況

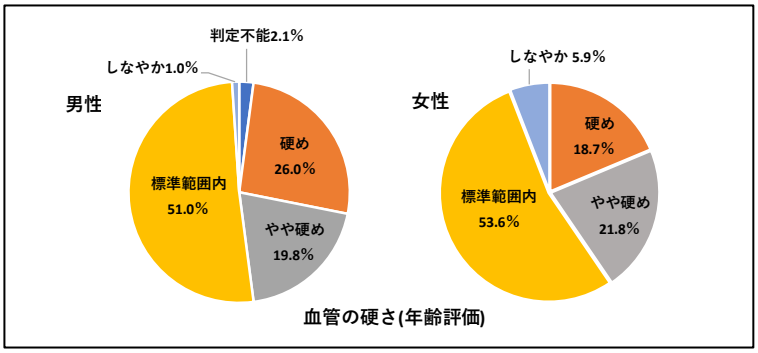
受診者数は 385 人で、男性 96 人（平均年齢 68.6 歳）、女性 289 人（平均年齢 68.6 歳）であった。受診者は男女とも 60 歳代・70 歳代が多かった。



（2）血管の硬さ

baPWV（脈波伝播速度：血管の硬さ）は、男性 50 歳代、女性 40 歳代から基準値 1400cm/sec を超え、この年代よりも若いうちから高血圧や脂質異常、糖尿病、喫煙などの動脈硬化のリスクを軽減することが重要である。

血管の硬さは同性同年齢と比較して評価している。血管の硬さが「硬め」の割合は、男性 26.0%、女性 18.7%であった。「やや硬め」の割合は男性 19.8%、女性 21.8%であった。また、男性で ABI 低値（0.90 以下）により判定不能が 2.1%であった。



（3）血管の詰まり

ABI 低値（0.90 以下）により血管の詰まり（狭窄）が疑われたのは 2 人、ABI 高値（1.40 以上）で血管の石灰化が疑われたのは 0 人であった。

5　体成分分析測定（自主）

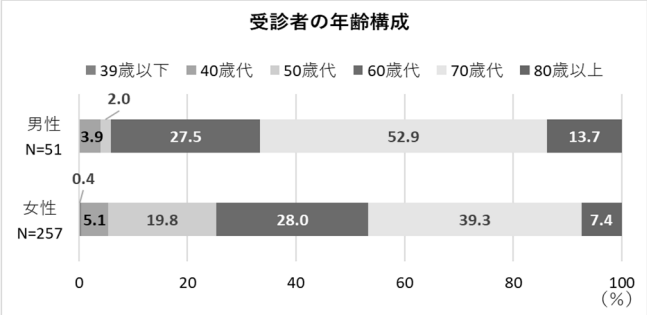
体成分分析測定は、体脂肪量・骨格筋量・四肢と体幹部の筋肉量とバランス・むくみ・内臓脂肪レベル等が把握できる。内臓脂肪レベル 10 は内臓脂肪断面積 100c ㎡に相当することから、メタボリックシンドロームの啓発にも有用である。令和 3 年度の受診者数は 222 人(実人数 203 人、男性 48 人 平均年齢 57.4 歳・女性 155 人 平均年齢 58.7 歳)、そのうち壮年期講座の希望受診者が 66 人（実人数 63 人、男性 8 人、女性 55 人）であった。また、所内で実施する料金規程事業のほか、無料で実施する地域での健康づくり支援・各種フェスティバル・イベントなど様々な事業においても実施し、健康づくりを始める動機付けなどに有効活用されている。(※健康度測定にも導入)

６　骨密度測定（自主）

骨粗しょう症の予防・早期発見を目的に、超音波による踵骨測定を行い、医師による測定結果の説明とアドバイスを実施した。

（１）受診状況

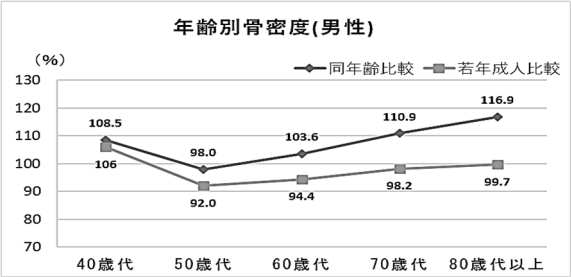
受診者数は 308 人で、男性 51 人(平均年齢 67.1 歳)、女性 257 人(平均年齢 67.2 歳)で、女性が 83.4%を占めていた。年齢分布は男性が 42 歳から 85 歳、女性は 34 歳から 97 歳であった。年齢構成では男女ともに 70 歳代が最も多くなっていた。

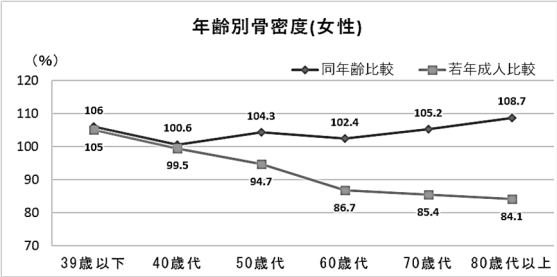


（２）測定基準

若年成人比較(YAM)の値が下がるほど骨密度が減少していることを示しており、使用機器(日立 AOS-100SA)では「A:異常なし」「B:要指導」「C:要精検」に分類される。

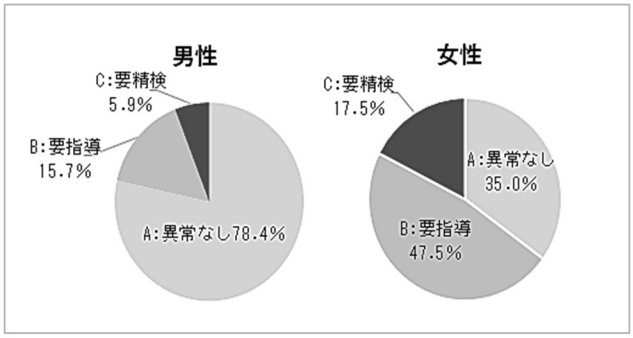
（３）測定結果

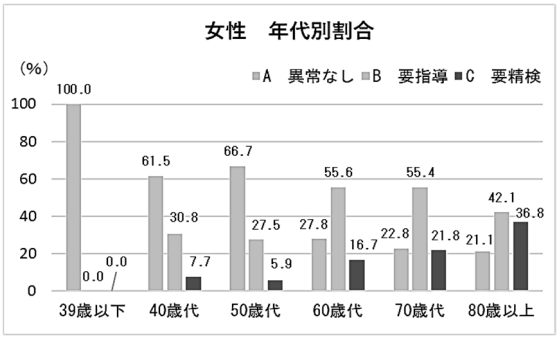




同年齢比較は男性平均 107.6%、女性平均 104.5%であった。

若年成人比較（YAM)では、女性の YAM 値は年齢とともに低下し、50 歳代から 60 歳代で減少幅が大きくなっていた。80 歳以上では最も低く 84.1%であった。男性においてはどの年代も 90%以上で維持できていた。「B　要指導」の割合は男性 15.7%、女性 47.5%、「C　要精検」の割合は男性 5.9%、女性 17.5%でどちらも女性が多くなっていた。女性の年代別割合では、40 歳代以降に「C　要精検」がみられ、最も多い 80 歳以上では 36.8%であった。





測定に加え、職員が作成した冊子を予防・改善のアドバイスに活用し、加齢と閉経が骨粗しょう症の大きなリスクであることの周知と、食事と運動のバランスについての説明を行った。また、所内の健康づくり講座(カルシウムアップ講座など)への参加もすすめている。

7　脳ドック

脳ドックでは、MRI・MRA による画像検査を主検査として「無症候・未発症」の脳および脳血管疾患とその危険因子を発見し、生活習慣の見直しなどによる「疾患予防のアドバイスをおこなうこと」を目的としている。

脳ドックでは２つのコースがある。※どちらも診察・結果説明は専門医が行っている。

○Ａコース（１日目　火曜日、２日目　土曜日）

１日目　血液検査、尿検査、胸部Ｘ線検査、安静時心電図、動脈硬化検査、頸部血管超音波検査

２日目　頭部 MRI・MRA 検査、問診、診察、結果説明

※50 歳以上の方には、頭部 MRI 検査時に VSRAD(早期アルツハイマー型認知症診断支援システム)を用いて画像解析を行い、また希望者には認知機能のスクリーニング検査も行っている。

○Ｂコース（土曜日）

頭部 MRI・MRA 検査、頸部 MRA 検査、問診、診察、結果説明

※Ｂコースにオプションとして頸部血管超音波検査と動脈硬化検査を実施している。

◎脳ドック男女、年齢別受診者状況

区分／年齢	受診人数		
	計	男	女
30 歳以下	0	0	0
31～40 歳	2	2	0
41～50 歳	10	4	6
51～60 歳	24	11	13
61～70 歳	46	21	25
71～80 歳	49	17	32
81 歳以上	24	9	15
合計	**155**	**64**	**91**
Ａコース	73	32	41
Ｂコース	82	32	50

◎脳ドックにおける重要な疾患と発見された主な疾患

疾病名	例数
無症候性脳梗塞	1
未破裂脳動脈瘤（疑い含む）	6
無症候性頭蓋内および頸部血管閉塞・狭窄	1
頸動脈プラーク	31
脳血管動脈硬化性変化	8
頚動脈壁肥厚(IMT 高値)	23
脳梗塞（陳旧性含む）	11
深部脳白質病変	4
微小脳出血	10
血管周囲腔の拡大	8
頭蓋内腫瘍	2
下垂体病変	8
耳鼻科疾患（副鼻腔炎・中耳炎）	3
海綿状血管腫(疑い含む)	2

◎危険因子から見た脳疾患保有率

Ⅰ:無症候性脳梗塞　Ⅱ：未破裂脳動脈瘤（疑い含む）Ⅲ：微小脳出血　Ⅳ：頸動脈プラーク

危険因子	受診数	Ⅰ		Ⅱ		Ⅲ		Ⅳ	
		該当数	%	該当数	%	該当数	%	該当数	%
高血圧	80	0	0.0	3	3.8	7	8.8	18	22.5
糖尿病	12	0	0.0	0	0.0	1	8.3	3	25.0
高脂血症	56	0	0.0	3	5.4	1	1.8	12	21.4
肥満	36	0	0.0	1	2.8	5	13.9	8	22.2
喫煙	7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
飲酒	84	0	0.0	3	3.6	3	3.6	12	14.3
家族歴	67	0	0.0	3	4.5	5	7.5	16	23.9
クモ膜下出血家族歴	11	0	0.0	1	9.1	0	0.0	1	9.1
危険因子なし	33	1	3.3	0	0.0	1	3.0	3	9.1
実人数	155	1		6		10		31	

第Ⅲ　専門相談課事業

Ⅰ　障害者相談支援事業（区指定管理）

保健センターは、専門医・専門職による専門相談機関として、様々な相談機関と連携し、多様なニーズに対応している。また、東京リハビリテーションセンター世田谷とは、保健医療福祉の拠点施設としての連携を図っている。

＜世田谷区における障害に関する主な相談窓口＞

	相談窓口		主な相談
28地区	福祉の相談窓口（あんしんすこやかセンター等）		障害、介護等に関する福祉の困りごとなどの相談
5地域	総合支所保健福祉センター	保健福祉課	障害福祉サービス利用に関する相談等
		健康づくり課	健康に関する相談等
		生活支援課	生活に関する相談等
		子ども家庭支援課	子どもとその家庭に係る相談等
	地域障害者相談支援センター「ぽーと」		障害に関する相談全般
	子育てステーション発達相談室		児童の発達障害に関する相談等
区内全域	指定特定相談支援事業所		サービス等利用計画の作成等
	指定障害児相談支援事業所		障害児支援利用計画の作成等
	指定一般相談支援事業所		入所施設・精神科病院等からの退所・退院にあたっての支援等
	発達障害相談・療育センター「げんき」		発達障害に関する相談等
	児童相談所		愛の手帳申請受付等児童に関する相談
	介護保険居宅介護支援事業所		ケアプラン作成等

区民

保健医療福祉の拠点施設「うめとぴあ」

保健センター専門相談課

区民からの相談や各相談機関経由の相談について、専門医・専門職※による評価に基づき助言を行うとともに、適切な支援機関や社会資源につないでいる。

※専門職　言語聴覚士、公認心理師等、作業療法士、社会福祉士、視覚障害指導、保育士、理学療法士

東京リハビリテーションセンター世田谷

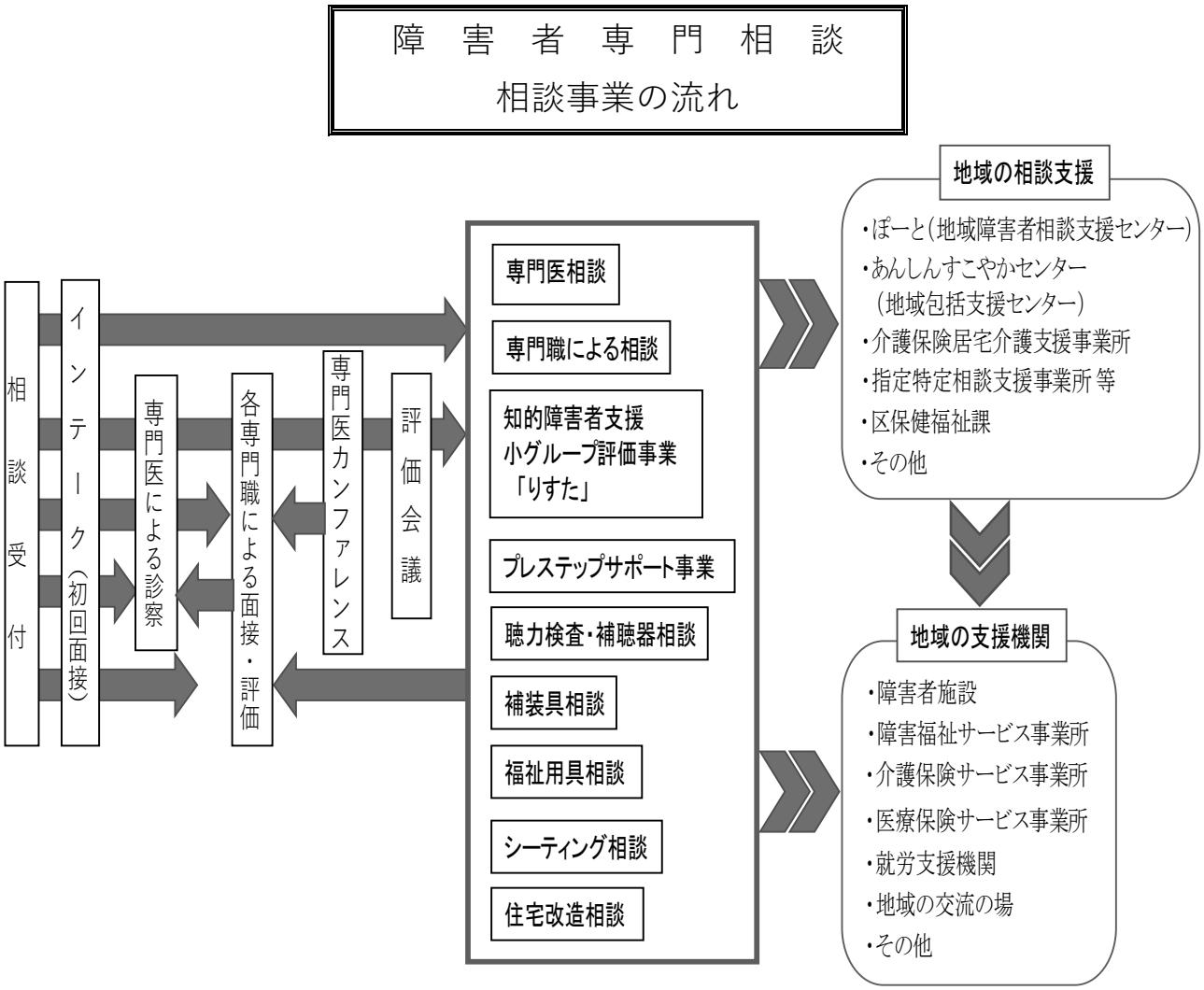
（自立訓練、児童発達支援等）

○区立総合福祉センター廃止（平成３１年３月）に伴い、障害者相談支援事業は保健センターへ、訓練・療育事業等は東京リハビリテーションセンター世田谷へ事業移行した。

1　障害者専門相談

（1）相談支援事業

各種相談事業は、区民や関係機関（各総合支所保健福祉課・健康づくり課・あんしんすこやかセンター・地域障害者相談支援センター・介護保険事業所・相談支援事業所・障害者施設等）からの障害に関するさまざまな相談に応じている。また、必要に応じて、専門職が家庭を訪問して出張相談に応じる。



○各種相談

事業 担当（職種）		実施日	内容
専門医相談	整形外科	2 回/月	○障害のある方の医療に関する相談 ○身体障害者手帳診断 ○車椅子・補聴器・眼鏡・拡大鏡等の補装具意見書作成 ○相談会の実施
	耳鼻咽喉科	1 回/月	
	眼科	1 回/月	
	神経内科	1 回/2 か月	
	精神科	1 回/月	
	リハビリテーション科	1 回/月	
	高次脳機能障害 リハ科 精神科	 1 回/月 1 回/2 か月	
専門職による相談 理学療法士・作業療法士 言語聴覚士・公認心理師 視覚障害指導・社会福祉士		随時 予約制	○障害に関することや障害による日常生活での困りごとに関する相談（身体・聴覚・視覚・知的・発達・難病・高次脳など）
知的障害者支援 小グループ評価事業 「りすた」 公認心理師・社会福祉士 看護師		週 2 回 おおむね 3 か月間 火・金	○環境の変化や障害特性等による集団生活への適応が難しい方等を対象に社会参加に向けた生活環境の整備や人との接し方の工夫について相談・助言・指導を行う。
プレステップサポート事業 理学療法士・作業療法士 社会福祉士・看護師		第 3 木	○中途障害を受けた方が、身の回りの動作の自立を目指しながら余暇活動の場に参加するなど、主体的に心身の健康を維持増進することを目的として、専門職が健康管理や運動適性、運動種目の適正等について助言指導を行っている。
聴力検査・補聴器相談 言語聴覚士		火午後 木午前	○聞こえに関する相談 ○聴力検査と必要に応じた補聴器の試聴
補装具相談（判定） 理学療法士・作業療法士		第 2 木午前 第 4 木午後	○各種補装具の相談（装具が体にあっているかや修理など）
福祉用具相談 理学療法士・作業療法士 視覚障害指導		随時	○福祉用具・日常生活用具の活用についての相談 ロービジョンエイド（視力障害の方の補助用具）・コミュニケーションエイド（言語や聴覚に障害のある方が意思を伝えるための補助用具）・車椅子・下肢装具・杖・白杖・補聴器・その他
シーティング相談 理学療法士・作業療法士		随時	○障害のある方や高齢の方からの、体に負担をかけない、目的に合った座り方の相談 ○ご本人にあった車椅子の作成や座位保持装置の相談
住宅改造相談 理学療法士・作業療法士		随時	○自宅を訪問し、手すりの取り付け位置や段差解消、安全な動線の確保、福祉機器や用具の導入、介助方法などの相談に応じる。

○相談受付件数 （件）

相談受付	平成 29 年度	30 年度	令和元年度	2 年度	3 年度
	1,099	1,104	1,514	1,129	1,360

○相談の主訴別内訳 （件）※重複あり

主訴別内訳	医療・手帳	評価・相談	聴力検査	住環境	補装具日常生活用具	福祉・生活その他	計
件数 （新規）	156 （32）	412 （79）	127 （85）	178 （85）	559 （54）	192 （4）	1,624 （339）

○新規相談者の障害別内訳 （件）

障害の原因	平成29年度	30年度	令和元年度	2 年度	3 年度
脳性麻痺	11	0	10	3	3
脳血管障害	40	36	59	43	30
脳腫瘍	1	2	4	2	3
神経筋疾患（含指定難病）	1	2	7	5	8
自己免疫疾患（含リウマチ）	1	0	0	0	3
脊髄損傷（四肢麻痺）	0	3	2	4	1
脊髄損傷（対麻痺）					3
骨関節疾患（切断、骨粗鬆症、頚椎症、変形性関節症）	2	5	10	14	11
頭部外傷	5	9	6	3	1
ポリオ、二分脊椎など先天脊髄疾患	—	—	—	—	1
脳炎・脳症・低酸素脳症等					0
認知症（含アルツハイマー型）	0	0	6	3	5
内科疾患（高血圧、心・腎・呼吸器）	1	1	3	4	1
その他（癌、加齢による障害）	9	3	59	60	18
視覚先天	5	1	4	0	0
視覚後天	36	26	25	37	204
聴覚先天	4	1	1	5	2
聴覚後天	96	80	20	16	12
知的障害	9	1	3	6	2
発達障害	1	2	0	2	2
精神障害	0	0	4	4	3
不詳	—	—	—	—	197
計	222	172	223	211	510

○新規相談者の紹介経路・地域内訳　（件）

紹介経路＼地域	世田谷	北沢	玉川	砧	烏山	計
保健福祉課	34	35	35	23	19	146
相談支援機関	6	7	3	1	5	22
あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）	19	11	1	5	2	38
介護保険事業者	5	4	0	2	1	12
区内福祉施設	4	0	2	2	0	8
医療機関	8	12	1	1	1	23
本人・家族	18	18	9	17	7	69
その他	5	6	2	3	5	21
計	99	93	53	54	40	339

○専門医相談　（件）

診療科目＼年齢	18～39 歳	40～64 歳	65 歳～	計
整形外科	14	32	18	64
耳鼻咽喉科	2	9	31	42
眼科	5	8	9	22
神経内科	0	1	2	3
精神科	10	1	1	12
リハビリテーション科	0	8	1	9
高次脳機能	4	16	4	24
計	35	75	66	176

○身体障害者手帳診断

ア　手帳診断書作成　（件）

	平成 29 年度	30 年度	令和元年度	2 年度	3 年度
保健センター実施分	34	46	40	34	43
医療機関委託分	65	116	100	110	115
計	99	162	140	144	158

イ　障害別件数　（件）

	平成 29 年度	30 年度	令和元年度	2 年度	3 年度
肢体不自由	29（ 4）	49（ 6）	46（ 5）	46（ 6）	47（ 3）
視覚	12（ 2）	11（ 1）	12（ 2）	10（ 3）	16（ 5）
聴覚平衡	54(28)	86(37)	68(33)	72(23)	75(33)
音声言語	1（ 0）	11（ 2）	8（ 0）	6（ 2）	4（ 2）
内部障害	3（ 0）	5（ 0）	6（ 0）	10（ 0）	16（ 0）
計	99(34)	162(46)	140(40)	144(34)	158(43)

※（　）は保健センター実施分

○高次脳機能障害に係る手帳診断 （件）

	平成 29 年度	30 年度	令和元年度	2 年度	3 年度
診断書作成	5	2	3	4	3

○補装具意見書作成 （件）

診療科目	整形外科	耳鼻咽喉科	眼科	計
意見書	車椅子	補聴器	眼鏡等	64
	16	38	10	

○補装具相談

	平成 29 年度	30 年度	令和元年度	2 年度	3 年度
件数	582	483	495	408	469

○ 補装具相談の種目別内訳 （件）※重複あり

種目＼年度		平成 29 年度	30 年度	令和元年度	2 年度	3 年度
下肢装具（短下肢・靴型・足底）		299	254	243	168	178
歩行補助杖・歩行器		7	9	3	12	2
車椅子各種	シーティング相談を兼ねる	138	159	148	146	169
座位保持装置	シーティング相談を兼ねる	38	15	36	27	11
眼鏡		58	25	23	24	76
盲人安全杖（白杖）		27	16	25	20	21
重度障害者用意思伝達装置		11	4	17	11	16
体幹装具		4	1	0	0	0
計		582	483	495	408	473

○シーティング相談

	平成 29 年度	30 年度	令和元年度	2 年度	3 年度
件数	176	174	184	173	175

○福祉用具相談 （件）

	平成 29 年度	30 年度	令和元年度	2 年度	3 年度
件数	149	142	202	161	123

○聴力検査・補聴器相談 （件）

	平成 29 年度	30 年度	令和元年度	2 年度	3 年度
件数	240	233	118	91	125

○知的障害者小グループ評価事業「りすた」 (件)

	令和元年度	2年度	3年度
心理個別相談・評価件数（実人数）	63(3)	66(2)	57(3)
知的障害者小グループ活動回数	24	64	47

○プレステップサポート事業 (件)

	令和元年度	2年度	3年度
相談・評価件数（実人数）	9(7)	37(9)	37(9)

○住宅改造相談 (件)

	世田谷	北沢	玉川	砧	烏山	計
件数	6	6	8	2	1	73

（２）障害者施設等への技術支援

区内の福祉施設等に専門職を派遣し、利用者への支援方法や環境整備に関する助言・指導等を行っている。

(回)

	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	公認心理師	計
回数	116	123	37	73	349

派遣施設一覧

種別	施設名
生活介護	泉の家、イタール成城、おおらか学園、奥沢福祉園、給田福祉園、九品仏生活実習所、コイノニアかみきた、駒沢生活実習所、桜上水福祉園、世田谷福祉作業所、千歳台福祉園、にこにこみやさか、東北沢つどいの家、友愛園、友愛デイサービスセンター、わくわく祖師谷
就労継続支援Ｂ型	上町工房、喜多見夢工房、下馬福祉工房、就労支援施設ＵＮＩ分場フェリーチェ、玉川福祉作業所、nicoRe、Factory藍、まもりやま工房、リバティ世田谷、わくわく祖師谷
就労移行支援	喜多見クリーンファーム、さら就労塾@ぽれぽれ、障害者就労支援センターすきっぷ
自立訓練	障害者支援施設梅ヶ丘、就労支援施設ＵＮＩ

（３）相談・交流会・ネットワーク・支援者養成

当事者や家族および支援者を対象に、相談会の企画・開催や情報交換の場を提供するなど地域生活への支援を行っている。

また、地域リハビリテーションの推進のため、医療・保健・福祉などに関わる機関・施設の実務者による連絡会の事務局を担い、関係機関との人的ネットワークづくりに取り組んでいる。

①相談会

障害のある当事者や家族向けに、眼科・耳鼻咽喉科・神経内科・精神科の専門医による相談会を行っている。

当事者や家族・支援者等に向けた福祉用具の相談会は、保健医療福祉総合プラザとの共催および福祉人材育成・研修センターの協力で開催している。

相談会	実施日	会場	参加人数
ふるえ・こわばりの相談会（個別相談形式）	11 月 1 日	保健医療福祉総合プラザ区民活動支援会議室	3 人
聞こえの相談会	11 月 10 日	保健医療福祉総合プラザ区民活動支援会議室	14 人
見えにくくなった方の相談会	12 月 2 日	保健医療福祉総合プラザ区民活動支援会議室	22 人
福祉用具展示相談会	1 月 25 日	保健医療福祉総合プラザ区民活動支援会議室、調理実習室、介護実習室他	85 人
見えにくくなった方の相談会（玉川）（個別相談形式）	2 月 17 日	玉川区民会館第 2 集会室	3 人
精神科相談会	3 月 2 日	保健医療福祉総合プラザ区民活動支援会議室	8 人

②交流会

視覚障害のある方とその家族・支援者等に向けた、見えない・見えにくい方の情報交換広場「スクエア」を月１回開催している。

また、「点字カフェ」は、視覚障害の理解と啓発を目的として保健医療福祉総合プラザとの共催で、実施している。

交流会	実施日	実施回数	延べ参加人数
視覚障害の方を中心とした情報交換のための交流会「スクエア」	第 2 火曜	11 回	55 人
点字カフェ	第 3 火曜	6 回	97 人

③関係機関との連絡会（オンライン開催）

区内の関係機関等との円滑な連携体制を構築するため、各種専門職等の連絡会を開催している。令和３年度は、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言等により、一部開催を見送り、一部 Web 開催に切り替えて実施した。

関係機関との連絡会	実施日	延べ参加人数等
作業療法士連絡会	6 月 18 日、10 月 22 日、2 月 18 日	41 人
言語聴覚士連絡会	6 月 25 日、2 月 25 日	62 人
医療ソーシャルワーカー・相談支援機関連絡会	9 月 17 日	18 施設

④支援者養成事業

福祉人材のスキルの向上を図るとともに、人材の育成を促進することを目的として、障害福祉に携わる区職員や民間事業者等を対象に、関係機関等への講師派遣を行っている。

ア　障害福祉従事者研修（Sofuku 講座）派遣先：福祉人材育成・研修センター令和３年度から講師を派遣している。

講座名	派遣講師	Ｗｅｂ配信	申込	視聴回数
車椅子の基礎	理学療法士３人	10/15～11/15	93	300
移乗介助とおむつの基礎 ①講義 ②リフト ③おむつ講義 ④おむつ装着 ⑤スライディングシート	理学療法士	11/1～11/30	90	①197 ②133 ③141 ④135 ⑤108
失語症の理解とコミュニケーション	言語聴覚士	12/10～1/11	110	253
作業環境の工夫	作業療法士 公認心理師	1/12～2/14	57	89
嚥下障害の理解とケア	言語聴覚士 理学療法士	2/15～3/14	80	179
視覚障害の理解	視覚障害指導	3/8～4/8	56	105

イ　同行援護従事者養成研修

内容	日程	派遣講師	派遣先
一般課程	11 月 16, 17 日	視覚障害指導	福祉人材育成・研修センター
応用課程	10 月 13, 14 日	視覚障害指導	福祉人材育成・研修センター

2　乳幼児育成相談

乳幼児期の子どもの発達・発育に関わる様々な相談に応じている。相談を行うにあたっては、母子保健、子育て支援、医療、福祉など多岐にわたる領域の関係者・機関と連携している。

（1）事業内容

①発達発育に関する相談・評価・助言

乳幼児の発達・発育に関する相談に対して専門評価を行い、その評価結果をもとに個々の相談ケースに応じたサービス等社会資源の情報提供や適切な支援機関等への繋ぎを行っている。

新規相談・評価の流れ

相談受付	発達・発育に関する相談
↓	
インテーク（初回面接） 発達検査	主訴や生育歴等の聴き取り……社会福祉士等 発達検査……公認心理師等
↓	
聴力検査・言語評価 （運動発達評価）	聴力検査・言語評価等……言語聴覚士 状態に応じて運動発達評価……理学療法士･作業療法士
↓	
専門医相談 行動観察による評価	診察と相談……小児科専門医 遊びを通した行動観察及び評価……保育士
↓	
カンファレンス・評価会議	支援方針決定……小児科専門医と各専門職 ◎児童発達支援事業所ぷらみんぽーとへの移行 ◎保健センターでの集団評価（親子支援グループ）・継続相談・保護者支援 ◎その他の児童発達支援事業所への移行等
↓	
支援方針の説明	保護者へ説明 専門評価に基づく子どもの特性や対応、支援方針

事　業　名	内　容
相談・専門評価	発達や発育に関する相談に対して各専門職が助言を行う。また、公認心理師、言語聴覚士、小児科専門医等が発達・発育に関して様々な面から評価し、支援方針を決定する。
支援機関への引継ぎ	支援方針に基づき、継続的な支援が必要なケースについて、児童発達支援事業所等への引継ぎなどコーディネートを行う。
保護者支援	育児・医療・療育面など保護者からの幅広い相談への対応や情報提供を随時行う。また、「親子支援グループ」では子どもの集団活動と並行して、発達や行動特性に関する保護者の理解を深める保護者教室を実施する。

②児童関係機関との連携及び地域支援

事　業　名	内　容
児童関係機関との連携	区内の児童発達支援拠点施設(ぷらみんぽーと、げんき)等と定期的な連絡会を開催し、連携を図る。
地域支援	区健康づくり課(母子保健事業)や障害児福祉施設等の依頼に基づき、当該施設等のスタッフに、公認心理師等の専門職が障害特性の理解や環境調整等の助言を行う。

（２）事業実績

①相談件数　　（件）

年度／主訴	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度								
					0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	その他	計
発達全体の遅れ	39	52	109	50	2	10	27	30	8	8			85
言葉・理解の遅れ	329	341	355	385		38	236	116	33	3			426
発音不明瞭	78	69	94	58			5	21	12	43	9	1	91
吃音	31	38	20	33			3	2	19	6	4	2	36
行動・コミュニケーションの問題	177	152	168	113	1	3	42	58	21	15	2	1	143
運動の遅れ	64	65	39	13	3	10	3			1			17
情緒面	—	—	8	1									0
紹介・情報提供	177	154	26	37	15	3	7	12	10	3	2	12	64
その他			28	18	3	4	6	4	1	1	1	2	22
計	895	871	847	708	24	68	329	243	104	80	18	18	884

②紹介経路・地域別相談件数　（件）

紹介経路＼地域	世田谷	北沢	玉川	砧	烏山	その他	計
健康づくり課	121	65	99	101	79	2	467
区の機関	18	5	22	12	8	12	77
病院・訪問看護	11	10	5	27	11	7	71
世田谷区発達障害相談療育センターげんき・発達相談室	14	11	18	14	5	11	73
東京リハビリテーションセンター世田谷児童発達支援事業所ぷらみんぽーと	5	1	4	8	16	11	45
他の療育機関	1						1
幼稚園・保育園	7	7	4	17	5	2	42
保護者自身	15	16	27	17	9	15	99
その他		3	2	1	1	2	9
計	192	118	181	197	134	62	884

③インテークの実績　（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
インテーク	20	19	26	29	30	31	32	32	31	32	31	28	341

④個別評価の実績　（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
個別評価延人数	95	68	91	99	109	105	107	115	118	107	101	114	1,229
(公認心理師等)	22	24	28	33	33	32	33	32	33	34	32	28	364
(言語聴覚士)	24	16	24	22	29	25	32	31	31	25	27	25	311
(理学療法士・作業療法士)	3	2	6	5	2	0	2	0	2	3	2	5	32
(専門医)	46	26	33	39	45	48	40	52	52	45	40	56	522

⑤専門医相談の実績　（人）

診療科目＼年度	平成29年度	30年度	令和元年度	２年度	３年度
小児科	760(338)	806(345)	613(343)	497(304)	522(322)
整形外科	25(　4)	33(16)	総合福祉センター機能移行後は実施せず		
耳鼻咽喉科	13(10)	22(19)			
摂食･嚥下	97(15)	111(18)			
計	895(367)	972(398)	613(343)	497(304)	522(322)

※１：専門医相談日　火曜日(第２・４午後)、水曜日(第１午後・第２・４全日)、
木曜日(第１午前・第４全日)、金曜日(第２・第３・４全日)

※２：令和３年度専門医相談の実績を計上したため、インテーク数とは異なる。
（　）内は、新規数である。

⑥新規相談児の障害分類　（人）

障害分類＼年度		平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度 計	男子年齢別 小計	0	1	2	3	4	5	6	女子年齢別 小計	0	1	2	3	4	5	6
正常範囲		6	10	10	4	5	1			1					4			3			1	
精神遅滞（MR）	精神遅滞（境界）	18	26	15	26	12	8			4	3	1			4				3		1	
	精神遅滞（軽度）	18	32	26	16	17	10			3	6	1			7			2	2	3		
	精神遅滞（中度）	1	3	1	1	2	1				1				1				1			
	精神遅滞（重度）				1	1	1						1									
運動発達遅滞	運動発達遅滞	7	13	6			2								2		1	1				
	精神運動発達遅滞	36	53	22	13	18	7		2	1	2	2			11		2	5	3	1		
	精神運動発達遅滞/その他	2	2			1	1					1										
言語障害	構音障害	30	33	35	20	16	8				1	2	4	1	8			1	2		5	
	吃音症	13	12	10	10	5	2						2		3				1	2		
	表出性言語障害	20	10	13	3	3	3			2			1									
	受容表出混合性言語障害	12	18	10	3	8	6			1		2	3					1	1			
	言語障害その他			1	1	1	1				1											
発達障害	自閉症スペクトラム症	181	138	208	200	239	184		3	93	55	24	9		55		2	23	28	2		
	ADHD	4	5	6	6	6	4				2	1	1		2				2			
	発達障害／その他				3																	
その他	選択性緘黙					1	1							1								
	身体疾患／その他	1	2	1																		
相談中止等		2	2	3	1	4	2			1	1				2				2			
計		351	359	367	308	341	240	0	5	106	71	35	21	2	101	0	5	36	45	8	7	0

⑦新規ケース　カンファレンス・評価会議の結果

支援方針内訳　（人）

支援方針		計
うめとぴあ	東京リハビリテーションセンター世田谷児童発達支援事業所ぷらみんぽーと　引き継ぎ	234
	保健センター乳幼児育成相談（集団評価・継続相談等）	68
	小　計	302
その他	世田谷区発達障害相談・療育センターげんき引き継ぎ	19
	子どもの生活研究所めばえ学園（児童発達支援センター）　引き継ぎ	3
	終了等	17
合　計		341

拠点施設うめとぴあでの支援方針内訳　（人）

支援機関＼支援方針	支援方針内訳 保育グループ	理学療法	作業療法	言語療法	心理	その他	計
東京リハビリテーションセンター世田谷児童発達支援事業所ぷらみんぽーと	150	16	6	36	26	0	234
保健センター乳幼児育成相談	34	0	2	8	15	9	68
計	184	16	8	44	41	9	302

⑧継続相談の実績　（件）

保育士	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	心理	その他	計
284	3	43	70	63	0	463

⑨親子支援グループ（集団評価）の実績　（組）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
集団評価延人数	36	41	61	19	32	32	28	34	32	27	37	22	401

（３）相談、評価、支援の詳細

①公認心理師等による相談・評価

ア　心理評価

多面的にとらえるため、１と２の心理検査を組み合わせて行っている。

	検査バッテリー	目　的
1	新版Ｋ式発達検査 2020	運動、認知、言語の三領域の評価を行い、発達年齢、発達指数を算出する。
	田中ビネー知能検査Ｖ	記憶力・弁別力・推理力など様々な能力の基礎である一般知能を測定する。精神年齢、知能指数を算出する。
2	遠城寺式分析的発達検査法	聞きとりによる発達検査。移動運動、手の運動、基本的習慣、対人関係、発語、言語理解の６つの領域の評価を行う。

イ　心理相談

個別評価、集団評価（親子支援グループ）を終了したケースを対象に実施。

・子どもの発達の問題は軽微で、継続的な療育の必要はない場合。保護者への単発的な助言で改善を図る。

・子どもの発達の問題は軽微だが、保護者のメンタルヘルスに問題がある場合。発達支援コーディネーターにつなげるなど地域資源を活用する。

・保護者のニーズが曖昧な場合。子どもの課題を整理し、必要な支援機関につなげる。

②言語聴覚士（ＳＴ）による相談・評価

ア　ＳＴ評価

	検査バッテリー	目　的
聴覚	COR／Peep Show／Play／ 標準純音聴力検査 ティンパノメトリー	ことばの発達に影響を及ぼす聴力低下や中耳炎の有無を確認する。
言語表出・言語理解・構音・吃音	ことばのテストえほん	言葉を理解する力、言葉を聞き分ける力、発音・声・話し方等の表現する力を確認する。
	絵画語い発達検査（PVT－R）	語彙(語い)の理解力の発達度を確認する。
	構音検査	構音(発音)の誤りの有無や発声発語器官の運動の状態を確認する。
	吃音検査法	吃音(きつおん)を客観的に評価し、症状を分析する。
コミュニケーション態度	検査場面の様子を観察	アイコンタクトの有無、対人意識の有無、要求の方法、応答性などのコミュニケーション態度を確認する。
問診	家族歴(吃音・難聴の有無など)	対応の参考とするため確認する。

イ　ＳＴ相談

全体的な発達の遅れは見られないものの、言語・発音・吃音にアドバイスが必要な児・保護者を対象に実施する。

・言葉の遅れが若干みられる児の発達状況の確認。
・発音が主訴だが、年齢が発音指導には早い児の改善状況の確認。
・吃音が主訴だが、評価・診察時には症状が落ち着いていて、改善傾向にある児のアドバイスや確認。

③作業療法士（ＯＴ）による相談・評価

ア　ＯＴ評価

インテーク後の心理評価(発達検査)において、認知や言語領域に比して極端に運動の値が低い、感覚に問題（可能性も含め）がある、協調運動のぎこちなさがあるケースを対象に運動評価を行う。

・基本的な運動（筋緊張、姿勢反応)、複雑な運動（運動企画、協調性など）
　※運動企画：身体の動かし方を組み立て実行する働き
・上肢機能、道具の操作性
・感覚機能（触覚、視覚、固有受容覚、前庭感覚など）
・日常生活動作、認知機能、行動の状態など

イ　ＯＴ相談

親子支援グループ終了後のフォローアップ、協調運動・感覚機能の課題に対する相談を行っている。

④理学療法士（ＰＴ）による相談・評価

ア　ＰＴ評価

インテーク後、姿勢、運動機能に課題があるケースを対象に運動評価を行う。

・座位及び移動を中心とした粗大運動
　※粗大運動…座る、立つ、歩くなど日常生活を送るために必要な動き
・筋力、バランス、運動企画など

イ　ＰＴ相談

粗大運動の発達や補装具についての相談を行っている。

⑤保育士による相談・評価

ア　保育士評価

専門医相談の中で、遊びを通じ子どもの行動を評価する。

・視線を合わせてくるか　　・声掛けへ意識が向くか
・玩具の提示に気付くか　　・大人からの誘い掛けに応じるか
・言葉かけや視覚提示で遊びの切り替えができるか

イ　保育相談

・子育てや幼稚園等集団での対応等に関する相談を行っている。

⑥集団評価（親子支援グループ）について

個別評価後のカンファレンス、評価会議での支援方針に基づき、児童発達支援による療育ではなく家族支援が必要な親子を対象に、保育士を中心に多職種が協働して集団評価（親子支援グループ）を実施する。

ア　目的

子どもに対して集団活動を通しての評価を行う。保護者に対しては、子どもの特性を理解し対応法を学び、自身のメンタルヘルスを増進させることができるようにすることを目的とする。

イ　グループの内容

・１グループ６組の親子。期間は、３か月間（毎週実施）または６か月間（隔週実施）。
・親子に対する１０回のプログラムと３か月後のフォローアップで構成。

ウ　プログラムの内容

・子どもの集団活動

主に室内遊び・運動遊び・一斉活動の３場面に分けて子どもの評価を行う。興味の偏りや遊びの狭さ、切り替えや指示に応じる姿勢、他児とのやり取りや共有に困難さを抱える子どもたちに対し、理解・表出・行動の統制、対人関係等個々に合わせた課題を保育士と専門職が連携し、子どもの適応状況に応じて段階的に支援を行う。

・実績（新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため１グループあたり４組で実施）

グループ名・曜日	回数等	定員（組）	参加実組数	参加延組数
あか・月曜日午前	1 期～4 期 全 10 回 各 1 時間 30 分	4	3	29
ぴんく・月曜日午後		4	11	99
あお・火曜日午前		4	12	74
おれんじ・火曜日午後		4	8	66
きいろ・水曜日午前		4	9	74
計			43	341

※令和３年度　３ヶ月後のフォローアップ参加：４１組

・保護者教室

初回に「自己紹介」を行い、共通の話題で子どもの課題について話ができるような環境を整える。２回目以降は、テーマを用意し、行動特性や対応について理解を深めていく。

また、子どもの集団活動を隣室からマジックミラー越しに観察しながら、子どもの様子や変化を保護者にフィードバックし、行動の背景や対応方法の共有化を図り、発達段階や行動特性を理解して日常の育児に活用できるよう取り組んでいる。

テーマ	内　容	担当
自己紹介	悩みの共有	公認心理師等
ASD/発達障害とは	基本的な知識	
アンガーマネジメント	育児をめぐるネガティブな感情を振り返る	
ペアレントトレーニング	子どもの発達促進や行動改善を目的とした保護者向けプログラム	
行動のマネジメント	ASD の行動の背景から対応を考える	
就学に向けて	就学相談・学校選びについて	
言語コミュニケーションについて	言葉の発達 言葉を育てる力 肯定的な言葉かけ	言語聴覚士
感覚と運動について	発達を支える運動経験・感覚遊び・感覚特性の評価	作業療法士
生活習慣について	トイレトレーニング・食事（偏食） 睡眠・ADL	保育士
就園に向けて	幼稚園・保育園への伝え方	

⑦おためしグループ

・目的：集団活動を通し、遊びや他者との関わりについて、専門職が評価する。保護者に対しては、保育士が子育てについてのアドバイス等を行う。

・子どもの発達段階に合わせて次期親子支援グループを案内する。

月	実施回数	定員（組）	参加実組数
5	1	4	2
6	1		1
8	1		3
9	1		3
１１	1		3
2	2		6
3	1		1
計	8		１９

（４）児童関係機関との連携及び地域支援

①児童関係機関との連絡会

・児童発達支援拠点施設間での連絡会を定期的に開催し連携を図っている。
世田谷区発達障害相談・療育センターげんき　月１回
東京リハビリテーションセンター世田谷 児童発達支援事業所ぷらみんぽーと　月１回

・総合福祉センター機能移行に基づき、梅ヶ丘拠点施設間の連携体制を強化するため、支援担当者連絡会を月１回開催している。

・区の乳幼児期支援に関わる機関（母子保健、子育て支援等）の連絡会に参加し、情報交換を行っている。

②１歳６か月親子支援グループ事業（ぽんぽんキッズ）への専門職の派遣

・総合支所健康づくり課１歳６か月親子支援グループ事業に作業療法士、言語聴覚士を派遣し、身体やことばの発達に関する相談、助言を行っている。

③巡回訪問

・区内保育園、幼稚園、民間障害児通所支援施設等に専門職を派遣。

・子どもへの関わりや環境調整に関する支援を通して、施設職員の支援技術の向上を図るとともに、施設全体として子どもの発達や困り感への理解を深めることを目的に、巡回型訪問支援を行っている。

（回）

職種 訪問施設等	公認心理師等	言語聴覚士	作業療法士	理学療法士	保育士	計
保育園					1	1
幼稚園	6				2	8
障害児通所施設		1	5	9		15
1歳6か月親子支援グループ		10	19			29
計	6	11	24	9	3	53

３　高次脳機能障害相談支援（区指定管理）

高次脳機能障害に関する個別の相談・評価を行うほか、小グループでの評価や一定期間の継続した相談支援など、当事者及びその家族等に対する支援を行っている。

また、高次脳機能障害専門の医師による区民向け相談会や家族交流会と共に、高次脳機能障害者ガイドヘルパー養成講座、失語症会話パートナー養成講座など、支援者養成を行っている。

（１）専門相談・評価

①相談・評価

高次脳機能に何らかの障害がある、あるいはその疑いがある方を対象に、専門医、作業療法士、言語聴覚士、公認心理師等が相談及び総合的な評価（神経心理学的検査、ＡＤＬ（日常生活動作）・ＩＡＤＬ（手段的日常生活動作）評価等）を行い、リハビリテーションや生活改善についての専門的な助言や情報提供を行う。

○実人数　50 人、延相談・評価件数 324 件

○個別相談・評価の内訳

（件）

日常生活・社会生活	評価	就労	医療	制度・手帳	訓練・施設等情報	その他	合計
28	68	66	34	21	63	44	324

②小グループ評価（職業評価プログラム「コンパス」）

小グループで作業評価などを行い、就労するために必要なことや、当事者に合った補完手段の提案等を行う。　週 3 回（月・水・金曜日）、期間は 4 ヶ月で実施している。

（人）

	令和元年度	2 年度	3 年度
実人数	11	5	6
延べ人数	367	196	166

（２）支援者養成

①高次脳機能障害者ガイドヘルパー養成講座（2 期実施）

開催日		修了者
前期	5 月 26 日～　7 月 2 日　全 6 回	9 人
後期	10 月 11 日～ 11 月 19 日　全 6 回	11 人

②高次脳機能障害者ガイドヘルパー研修会

開催日	内容・講師	人数
2 月 18 日	高次脳機能障害者ガイドヘルパー研修会修了者や支援者を対象に、事例検討を通して支援技術などのスキルアップを目的に実施 講師・助言者：ケアステーション連 今井 雅子　氏 事例提供者　：カナウの森　髙橋　敏満　氏	6 人

③失語症会話パートナー養成講座

今年度より地域の会話パートナー（ボランティア）を養成することを目的に、玉川地域と烏山地域の２か所で講座を開催した。

開催日		修了者
玉川地域	7 月 5 日～12 月 6 日　　全５回	２人
烏山地域	8 月 5 日～ 1 月 6 日　　全５回	４人

④失語症会話パートナー養成講座フォローアップ研修

開催日	内容・講師	人数
1 月 20 日	失語症のある方における様々な課題と現状をテーマに、スキルアップを目的として実施 「失語症のある方における様々な課題と現状」 講師：特定非営利活動法人 日本失語症協議会 理事長　園田　尚美　氏	29 人

（３）失語症者向け意思疎通支援事業

失語症者の意思疎通を支援するため、障害者総合支援法に基づくサービスとして世田谷区の委託を受け、失語症当事者と意思疎通支援者のマッチング、支援者の派遣などを行っている。

（件）

	令和元年度	２年度	３年度
支援者派遣件数	11	7	15

※令和元年度は試行

（４）区民向け講演会・相談会

開催日	内容・講師	人数
令和 3 年 10 月 8 日	区民向け講演会 「高次脳機能リハビリテーションー子どもから高齢者までー」 講師：はしもとクリニック経堂　理事長 昭和大学医学部リハビリテーション医学講座 准教授　橋本圭司 医師	28 人
令和 3 年 12 月 16 日	区民向け相談会 「語り合おう～それぞれの思い、それぞれの悩み～」 講師・助言者：東京慈恵会医科大学附属第三病院 リハビリテーション科　教授　渡邉　修 医師	19 人

（５）ネットワーク・地域支援

①世田谷区高次脳機能障害者関係施設連絡会

当事者及び支援者の顔の見える関係を築き、区内関係機関の円滑な連携やネットワークの構築を図る。

第 1 回は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため書面による情報提供、第 2，3 回はオ

ンライン会議として実施した。

	第1回	第2回	第3回
開催日	5月	9月10日	2月4日
参加施設・人数	書面による情報提供	20施設　27人	24施設　30人

②失語症サロン

失語症サロンは、総合福祉センターにおいて平成17年度から養成してきた「失語症会話パートナー」を活用し、失語症のある方が、会話パートナーと出会い、支援を受けながら会話を楽しむ場を提供している。

毎月第3水曜日に保健医療福祉総合プラザ内で開催する他に、令和2年9月から玉川地域、烏山地域でも開催している。新型コロナウイルス感染症の状況を勘案し中止となる回もあった。

（人）

会場	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
保健医療福祉総合プラザ	31	中止	23	24	中止	25	26	34	36	21	19	23
玉川地域	13	—	18	—	6	—	17	—	11	—	中止	—
烏山地域	—	7	—	4	—	1	—	5	—	4	—	中止

（6）高次脳機能障害者の相談支援体制等に関する調査研究

世田谷区における高次脳機能障害者支援の現状と課題を把握し、今後の施策検討の基礎資料とするため、相談支援体制を中心に、訓練や居場所、当事者同士の交流の機会等について調査研究を実施した。

ワーキンググループで検討を重ね、当事者・家族へのヒアリング調査、医療機関・相談支援機関・高次脳障害支援専門相談機関・訓練・福祉サービス事業所へのアンケート調査を行い、「高次脳機能障害者の相談支援体制等に関する調査研究報告書」としてまとめた。

Ⅱ　こころの健康支援事業（区指定管理）

１　夜間休日等こころの電話相談

こころの健康づくりに関して気軽に相談できる窓口として、平日夜間及び休日の電話相談を実施している。相談は精神保健福祉士等による専門相談と電話相談の研修を受けた障害当事者が対応するピア相談の時間帯を設けている。

相談内容によって、継続的な支援が必要な場合は、区の相談窓口等につないでいる。

実施日・時間	月・水・木曜日	午後５時～７時	ピア相談
		午後７時～１０時	専門相談
	土曜日及び祝日にあたる月・水・木曜日	午後２時～４時	ピア相談
		午後４時～８時	専門相談

※令和４年９月から火曜日も相談を実施する。

事業実績

	実施回数			相談件数		
	月・水・木曜日	土曜日及び祝日にあたる月・水・木曜日	計	専門相談	ピア相談	計
令和２年度	145 回	61 回	206 回	1,751 件	771 件	2,522 件
３年度	143 回	62 回	205 回	1,692 件	829 件	2,521 件

２　ピア相談員の養成

電話相談に従事するピア相談員を養成するため、令和２年度からピア相談員養成講座を行っている。養成期間は２年間で、３年度は第１期養成の２年目として応用編を実施し、５名が修了した。４年度は第２期養成の１年目として、入門編と基礎編を実施する予定である。

事業実績

	修了者数	
	入門編・基礎編	応用編
令和２年度	23 人	―
３年度	―	5 人

３　こころの健康情報コーナー

保健センター「こころとからだの保健室ポルタ」内に、こころの健康に関する書籍等の閲覧ができる「こころの健康情報コーナー」を開設し、区民の利用に供している。

４　普及・啓発

健康に関する知識の普及・啓発のため、区民向けの講演会・セミナー等を実施している。

開催日	タイトル	講師	受講者	備考
6 月 28 日	スマホやゲームがやめられない ～それって依存症？～	昭和大学附属烏山病院 中村 暖	46 人	オンライン
9 月 30 日	思春期の子に親ができることは何だろう	クリニックおぐら 生田 洋子	97 人	オンライン
10 月 28 日 11 月 11 日	子どもの心を育てるコーチング（全２回）	NPO 法人ハートフルコミュニケーション 代表理事　菅原 裕子 副理事長　平松 容見子	41 人 39 人	
11 月 5 日	こころとからだの整え方 ～認知行動療法の視点から～	一般社団法人認知行動療法研修開発センター 理事長　大野 裕	77 人	
1 月 27 日 2 月 3 日	依存症セミナー～知っておきたい身近な病～（全２回）	医療法人アパリ アパリクリニック 理事長　梅野 充 昭和大学附属烏山病院 常岡 俊昭	57 人 73 人	オンライン
2 月 17 日	心の病気は身体の病気とどこが違うのか～統合失調症を例に脳と心を考える～	公益財団法人東京都医学総合研究所 副所長 糸川 昌成	72 人	オンライン

Ⅲ　その他の技術提供事業（自主）

１　住宅改修アドバイザー

自宅で安全かつ便利な生活ができるよう、介護保険の住宅改修費の支給を受けて住宅の改修を行う家庭に、アドバイザー（理学療法士、作業療法士等）が訪問し、相談、助言を行っている。

（回）

	平成 29 年度	30 年度	令和元年度	2 年度	3 年度
回数	142	152	119	105	100

２　福祉施設等技術支援

障害のある方が入所・通所している高齢福祉施設に専門職員を派遣し、施設職員に対して、障害特性の理解や介助の留意点等について技術的な助言指導を行っている。新型コロナウイルス感染症のため、依頼は大幅に減少した。また、施設等の研修会に講師を派遣した。

（回）

	平成 29 年度	30 年度	令和元年度	2 年度	3 年度
回数	48	48	48	11	9

第Ⅳ　サービスの向上

Ⅰ　広報事業

保健センターでは、区民の健康のための情報発信を重要な使命ととらえ、健康情報紙「げんき人」や「保健センターホームページ」等で事業を PR し、検査や健康に関する正しい知識を提供している。また、がん検診と健康増進事業、健康教育事業の事業案内や教室などの募集については、毎月 1 日号・15 日号の区のおしらせ「せたがや」に掲載している。

1　健康情報紙「げんき人」

健康づくりに関する幅広い知識の普及啓発を目的に、保健センター健康情報紙「げんき人」を発行し、新聞折り込みや区内公共施設に配布している。

令和３年度実績

発行年月日	内　　容	規　　格 発行部数
2021.6.1 (第 106 号)	新しい生活様式の中での健康づくり できることから始めましょう！	タブロイド判　2 ページ 232,000 部
2021.9.1 (第 107 号)	「せたがや元気体操リーダー」活躍中！	タブロイド判　4 ページ 232,000 部
2021.11.15 (第 108 号)	「がん」と診断される人は増えている！？	タブロイド判　2 ページ 232,000 部
2022.3.1 (第 109 号)	保健センターでは、障害や乳幼児の発達、発育に関する相談をお受けします。	タブロイド判　2 ページ 232,000 部

2　保健センターホームページ

「保健センターホームページ」は、リアルタイムの事業紹介・情報提供を行っており、一部事業については Web 上での予約を受け付け、24 時間アクセスできるホームページの利点を生かしている。

健康情報紙「げんき人」については、平成 11 年発行の 29 号より全ページが見られるようになっており、平成 3 年からの 1～28 号についても、内容が分かるリストを掲載している。

公益財団として経営状況等をお知らせするため、事業計画や決算書等の事業報告、各規程・規則等を公開している。

http://www.setagayaku-hokencenter.or.jp/

３　ＳＮＳを使った情報発信

平成 28 年 12 月より Facebook を利用し健康教室の案内や教室の様子等を動画などにて発信している。

４　エフエム世田谷を使った情報発信

エフエム世田谷毎週水曜午前の番組「Bee Up！Setagaya」の中で、胃がん・大腸がん検診のすすめや健康教室のお誘い、「健やかに過ごすための工夫」のワンポイントやイベント等情報発信を行っている。

Ⅱ　利用者満足度調査

令和４年１月に実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症（オミクロン株）の感染拡大により中止とした。

Ⅲ　苦情処理対応ほか

保健センターの事業や施設・設備に対する苦情や要望など、利用者からの幅広い意見の収集に努めるため、施設内に「ご意見箱」を設置している。なお、寄せられた意見に対しては、利用者への回答として「ご意見箱」設置場所に対応方法などを掲示した。

対　象　者	世田谷区保健センター来所者
実 施 方 法	所内２ケ所（２階受付前・３階）に記入用紙と回収箱を設置
投 書 総 数	２０件
記 載 内 容	・最寄駅から保健センターへのアクセスに関するご意見 ・事業内容に関するご要望 ・新型コロナウイルス感染症対策に対するご意見等